



4月13日（土）～6月30日（日）

世界一大きな授業 2019

SDG4 の達成をめざす "世界同時キャンペーン" に授業をやって参加しよう！

My Education, My Rights 教育はわたしの権利

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいの経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



世界のすべての人が質の高い教育を受けられるようにし
幼い子どもから大人まで、いつでも学ぶことができる機会を広げていきます。

2030年までに

- 4.1 小学校～高校段階の教育を、男の子も女の子も分けへだてなく、無料で、学んだ成果が出るように、質の高い教育*を受けられるようにします。
※教育を受ける環境や使用する教材、教える教員、授業内容が十分に充実している教育のこと
- 4.2 赤ちゃんや幼い子どもが、男の子も女の子も分けへだてなく、きちんとした保育や教育を受け、小学校へ通う準備ができるようにします。
- 4.3 専門学校や職業訓練校、大学などに進学する権利を、男の子も女の子も分けへだてなく、みんなが平等に持つことができるようにします。
- 4.4 生きがいを持って働くことのできる仕事や、自分で事業をおこすために必要な専門技術や資格を身に付けた若者や大人を増やします。
- 4.5 教育の中での性別による格差をなくします。障害者、先住民族、(暴力などの) 怖い思いをしている子どもなど、社会のなかで弱い立場にいるすべての人が、他の人と同じように、あらゆる教育や働くための訓練に参加できるようにします。
- 4.6 すべての若者と大人が、読み書き、基本的な計算ができるようにします。
- 4.7 学びたいと思うすべての人が、「世界にいま暮らしているすべての人と将来の世代の人がともに豊かに暮らす社会をつくる(持続可能な開発)」ために、必要な知識や方法を身に付けることができるようにします。そのために、持続可能な開発のための教育(ESD)、持続可能な暮らし、人権、男女の平等、平和と非暴力の推進、グローバル・シチズンシップ(地球市民教育)、文化の多様性と文化が果たす役割などの教育にも力を入れていきます。

持続可能な開発目標 (SDGs)

2030年までに

| | | |
|-------|--|---|
| 目標 1 | <p>貧困をなくそう 世界中の、あらゆる形の貧困を終わらせる。</p> |    |
| 目標 2 | <p>飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、栄養を改善し、持続可能な農業をすすめる。</p> |    |
| 目標 3 | <p>すべての人に健康と福祉を 何歳であっても、健康で、安心して満足以に暮らせるようにする。</p> |    |
| 目標 4 | <p>質の高い教育をみんなに だれもが平等に質の高い教育を受けられるようにし、だれもが生涯にわたってあらゆる機会に学習できるようにする。</p> |    |
| 目標 5 | <p>ジェンダー平等を実現しよう すべての人が性を理由に差別されないようにし、すべての女性や女の子に力を与える。</p> |    |
| 目標 6 | <p>安全な水とトイレを世界中に 水と衛生的な環境をきちんと管理して、だれもが安全な水と衛生的な環境を得られるようにする。</p> |   |
| 目標 7 | <p>エネルギーをみんなに・そしてクリーンに 価格が安くて、安定して発電でき、持続可能で近代的なエネルギーをすべての人が使えるようにする。</p> |    |
| 目標 8 | <p>働きがいも・経済成長も 自然資源が守られ、みんなが参加できる経済成長を進め、すべての人が働きがいのある人間らしい仕事をできるようにする。</p> |   |
| 目標 9 | <p>産業と技術革新の基盤をつくろう 災害に強いインフラをつくり、みんなが参加できる持続可能な経済発展を進め、新しい技術を生み出しやすくする。</p> |    |
| 目標 10 | <p>人や国の不平等をなくそう 国と国の間にある不平等や、国の中での不平等を減らす。</p> |   |
| 目標 11 | <p>住み続けられるまちづくりを まちや人々が住んでいるところを、誰もが受け入れられ、安全で、災害に強く、持続可能な場所にする。</p> |    |
| 目標 12 | <p>つくる責任・つかう責任 持続可能な方法で生産し、消費する。</p> |   |
| 目標 13 | <p>気候変動に具体的な対策を 気候変動や、それによる影響を止めるために、すぐに行動を起こす。</p> |    |
| 目標 14 | <p>海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために、海や海の資源を守り、持続可能な方法で使用する。</p> |   |
| 目標 15 | <p>陸の豊かさも守ろう 陸の生態系を守り、再生し、持続可能な方法で利用する。生物多様性が失われることを防ぐ。</p> |    |
| 目標 16 | <p>平和と公正をすべての人に 平和でみんなが参加できる社会をつくり、すべての人が司法を利用でき、地域・国・世界のどのレベルにおいても、きちんと実行され、必要な説明がなされ、だれもが対象となる制度をつくる。</p> |   |
| 目標 17 | <p>パートナーシップで目標を達成しよう 実施手段を強化し、持続可能な開発に向けて世界の国々が協力する。</p> |    |

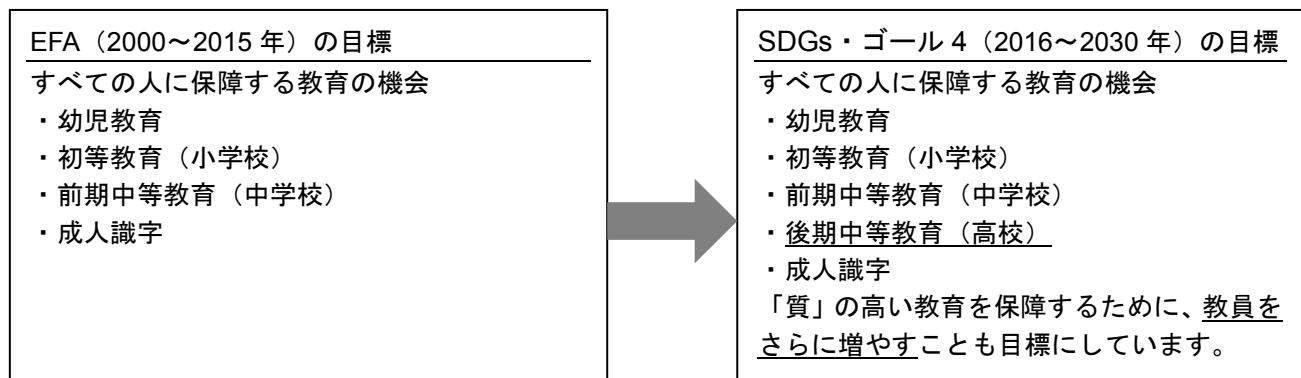
授業を実施される皆さまへ
「世界一大きな授業 2019」公式教材の3つの特徴

「世界一大きな授業」公式教材は2003年のスタート時より毎年、リニューアルを重ねています。教材には特に3つの大きな特徴があり、また、本キャンペーンの目指すものを明確に打ち出した教材となっています。

1. 世界の「教育目標」は「EFA」から「SDGs・ゴール4」へ

2003年～2015年までの「世界一大きな授業」は、「EFA（Education For All／万人のための教育）」という教育目標達成のために実施してきましたが、2016年からは新しい目標である、SDGs・ゴール4を反映した内容となっています。毎年、内容や解説、データを変更していますので、複数回ご参加くださっている方も、各アクティビティに記載されている解説や資料を確認して、実施してください。

教育は、SDGsに掲げられたその他の目標を達成するためにも必要なものです。ゴール4（教育）の達成はSDGs達成の鍵ともいえます。



2. 日本の教育問題を扱ったアクティビティを追加

「持続可能な開発目標」（SDGs）の特徴は、いわゆる「開発途上国」が達成すべき目標ではなく「日本を含む世界のすべての国々」が達成すべき目標であることです。

ゴール4では、国が保障すべき基礎教育の定義が大幅に広がり、幼児教育、小中学校そして高校までが含まれました。待機児童が多すぎて保育園に通えない子どもたちや、経済的な理由で高校に通い続けることが難しい子どもたちは、まさにゴール4の対象になる子どもたちです。アクティビティ5「ちがいのちがい SDG4バージョン」、6「日本の教育問題とSDGs」では、世界の課題だけでなく、日本にもある課題も紹介しています。より多くの人々が、SDGsを、ゴール4を、自分たちに身近なものとして捉えていくことを願っています。

3. 自分たちの声を政府に届ける！政策提言

さて、ゴール4で目指している「質の高い教育をみんなに」は、どうしたら実現できるでしょうか…？

個人や民間団体による寄付や支援プロジェクトも効果がありますが、より重要なのは、国が教育に予算を充て、教員を養成し、質の良い、公平な教育の環境を整えること。つまり、「政策」を改善することです。

途上国政府は、教育予算を増やすよう、努力すること。日本も含む援助国は、教育援助—特に初等教育や女子教育、低所得国、紛争地域への援助を重視すること。そういった「政策」を実現させるためには、市民から、世界や国のリーダーたちに意見を述べ、提言することがとても大切です。

女子教育の重要性を訴え、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんも映画『わたしはマララ』のエンドロールで「**Raise Your Voice!**（声をあげよう）」と呼びかけています。各地でリーダーたちに会い、「すべての子どもに教育を」と対話を重ねるマララさんのように、わたしたちも声をあげることができます。

本教材のアクティビティ9では、「日本政府への政策提言」を行います。送付いただいた提言は、事務局で取りまとめ、日本政府へ届けます。日本の援助政策を決めるのは、日本政府。国会議員は変化を起こす大きな力を持っています。その国会議員を動かすのは、子どもたちも含めたわたしたち市民の声です。わたしたちの想いを、声を、日本政府に届けましょう。

■この教材のねらい

1. 世界と日本の教育の現状について知り、教育の大切さについて考えること。
2. より良い世界のために活動する子どもたちがいることを知り、自分たちに何ができるか考えること。
3. 日本の教育援助の現状を知ること。
4. より良い教育政策の実現に向け、日本政府に政策提言すること。

■アクティビティについて

| | アクティビティ | 内容 | 対象 | 所用時間 | 実施の難易度 |
|-----|---------|-------------------------|--------|------|--------|
| 導入 | 1 | クイズ | 小学生～大人 | 15分 | ☆☆☆ |
| 基本 | 2 | 識字（対象年齢別の2種類） | 小学生～大人 | 30分 | ☆☆☆ |
| | 3 | 教育と資金 | 小学生～大人 | 30分 | ☆☆☆ |
| | 4 | 行動する子どもたちのストーリー＆動画 | 小学生～大人 | 30分 | ☆☆☆ |
| 発展 | 5 | ちがいのちがい SDG4バージョン | 中学生～大人 | 45分 | ★★★ |
| | 6 | 日本の教育問題とSDGs NEW | 中学生～大人 | 45分 | ★★★ |
| | 7 | 本当に必要な「教育援助」とは？ | 高校生～大人 | 50分 | ★★★ |
| | 8 | 日本の教育 ODA の推移を読み解こう | 高校生～大人 | 30分 | ★★★ |
| まとめ | 9 | 首相・外務大臣に手紙を書こう | 小学生～大人 | 45分 | ☆☆☆ |

- ・ アクティビティ1は導入です。すべての対象者に実施していただくのがおすすめです。
- ・ アクティビティ2・3・4は基本的なプログラムです。対象者やテーマに合わせて、3つの中から1つ以上を実施していただくのがおすすめです。
- ・ アクティビティ5・6は、日本の教育にも目を向け、SDG4を理解するための発展のプログラムです。
- ・ アクティビティ6は、日本の教育問題のみを扱った、今年の新作プログラムです。
- ・ アクティビティ7・8はより深く、教育援助の質と量について考える発展のプログラムです。
- ・ アクティビティ9はまとめとなります。すべての対象者に実施していただくのがおすすめです。
- ・ 対象：小学校高学年以上（アクティビティ5・6は中学生、7・8は高校生以上）
- ・ 時間：45分～（すべて実施すると5時間以上+αの時間が必要です）
- ・ 人数：20～40名のクラスルームでの実施を想定して作成しています。
- ・ 形式：参加型学習（アクティブ・ラーニング形式）ですすめてください。

■参加型学習について

参加型学習をすすめる上で重要なのが、皆が安心して話せる環境をつくることです。はじめに、話したくないことは話さなくてよい、他の人の意見を否定しない、などの約束をつくり、確認したうえで学習を始めてください。

実際の授業の様子は、約6分のYouTube動画で観ることができます（教材は2018年版を使用）。

https://youtu.be/0Em_TlzaQqg



「世界一大きな授業」は2003年から毎年実施しています。

毎年参加して下さっている方や、普段から開発教育に取り組んでいる方からは「もう少し発展的なアクティビティがほしい」というご意見があり、初めて参加する方や、小中学生を対象とした方からは「楽しく、基本的な事柄を学べるアクティビティがほしい」というご意見をいただいています。

教材は、自由にアクティビティを組み合わせて使っていただけるように作成しています。

全部実施しなくても大丈夫です。授業の時間や対象者に合わせてご利用ください。

■初めて参加する方におすすめのプログラム（小学生以上／45分～）

- ① アクティビティ1「クイズ」で世界の教育の現状について基本的な情報を共有する。
- ② アクティビティ2「識字」または3「教育と資金」のどちらかを実施。
- ③ アクティビティ9「首相・外務大臣に手紙を書こう」でまとめと提言。

■2回以上参加している方におすすめのプログラム（中学生以上／60分～）

- ① アクティビティ1「クイズ」で世界の教育の現状について基本的な情報を共有する。
- ② アクティビティ4「行動する子どもたちのストーリー&動画」、アクティビティ5「ちがいのちがいのSDG4バージョン」、アクティビティ6「日本の教育問題とSDGs」のいずれかを実施。
- ③ アクティビティ9「首相・外務大臣に手紙を書こう」でまとめと提言。

■2回以上参加している方、開発教育実践者におすすめのプログラム（高校生以上／90分～）

- ① アクティビティ7「本当に必要な教育援助とは？」を実施。
- ② アクティビティ8「日本の教育ODAの推移を読み解こう」を実施。
- ③ アクティビティ9「首相・外務大臣に手紙を書こう」でまとめと提言。

■スライド資料&英語版もあります

教材の内容に合わせたスライド資料（パワーポイント）もご用意しています。教材のダウンロードページに掲載していますので、ご利用ください。授業の実施内容に合わせて、編集してご利用ください。

また、ページ上部に㊟マークのついているワークシートや配布資料、スライド資料は英語版も作成していますので、必要に応じてご利用ください。GCE（Global Campaign for Education）のウェブサイトには英語の資料も多数ありますので、併せてご利用ください。🌐 <http://www.campaignforeducation.org/en/>



昨年の様子（左：北海道・北星学園女子中学高等学校 右：東京都・足立区立第四中学校）

2. 教材&ワークシート

アクティビティ1：クイズ

対象：小学生～大人

所要時間：15分


実施の難易度：★☆☆

■準備するもの

1. ワークシート（9頁）
2. 世界地図（あれば）
3. 投影機材（パワーポイント資料を使用する場合）

■すすめ方

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|--------|--|---|
| 1.はじめに | 「世界一大きな授業」をはじめるとを説明する。 | |
| 2.クイズ | 挙手や参加型のアクティビティ「部屋の四隅」などの方法で、クラス全体にクイズを出す。または、小グループにクイズのワークシート（9頁）を配布してグループで考えてもよい。 | 参加者が自由に発言をしてもよい空間づくりをこころがけましょう。なぜそう思ったのか理由を聞くのもよいと思います。 |
| 3.解説 | 「クイズの答えと解説」（10頁）を使いながら、答え合わせを行い、世界の教育の現状について説明する。 | |

このアクティビティのすすめ方を動画でチェック！  https://youtu.be/0Em_TlzaQqg

■Tipsー参加型で進めるヒント「部屋の四隅」

「部屋の四隅」とは、部屋の四隅に「A」「B」「C」「D」などの4つの回答と書いた紙を貼っておき、ある質問に対して参加者が自分の考えのところに移動する、というとても簡単なアクティビティです。最初の質問に全員が移動し終わったら、各コーナーの人に、なぜそう思うのか意見を聞きます。次の質問に移り、また全員が自分の考えのところに移動します。何回か繰り返し、最後に全体の感想を話し合います。視覚的に様々な意見があることが分かり、また、体を動かすことで体をほぐし、話しやすい雰囲気をつくれます。



参考：<http://www.dear.or.jp/activity/menu01.html>（開発教育協会）

実践者の声（2018年度アンケートより）

- ・ 初めて知ったという学生も多く、これからの活動にも期待を持てる内容で実施することが出来ました。
- ・ アクティビティごとの目的や実施の方法が、パワーポイントのノートに記載されていて良かったです。
- ・ 同じ年齢層の世界の子ども達の現状について、知らなかったことが多い。
- ・ クイズで行ったので興味持ってみんなで取り組み、そのあとの感想のシェアリングも充実しました！

やってみよう！「世界一大きな授業」クイズ

Q1 世界では、どのくらいの子どもが小学校に通っていないでしょう？

- A. 5人に1人（およそ1億4,000万人）
- B. 10人に1人（およそ6,400万人）
- C. 25人に1人（およそ2,800万人）
- D. 50人に1人（およそ1,400万人）

ヒント

日本の人口は1億2千万人。
世界の人口はおよそ76億人。
そのうち、小学校に通う年齢の
子どもは7億人いるよ。

Q2 小学校に通えない理由にはどんなことがあるでしょう？

- A. 学校や先生の数がないから。
- B. 家にお金がないので働かなくてはいけないから。
- C. 親や地域の人々から学校に行かなくても良いと言われたから。
- D. 戦争や紛争で、学校がこわされたり、軍に利用されてしまったりするから。

Q3 世界では、小学校に入学しても、途中で通うのをやめてしまう子どもたちが多くいます。その割合はどのくらい？

- A. 5%（20人に1人）
- B. 10%（20人に2人）
- C. 15%（20人に3人）
- D. 20%（20人に4人）



Q4 すべての子どもが小学校に通い、よい教育を受けるためには「先生が足りない」といわれています。世界では、2030年までにあと何人の新しい「小学校の先生」が必要とされているでしょう？

- A. 40万人
- B. 140万人
- C. 240万人
- D. 340万人

Q5 世界では、読み書きができない「大人」がどのくらいいるでしょう？

- A. 2人に1人（およそ25億3,000万人）
- B. 7人に1人（およそ7億5,000万人）
- C. 18人に1人（およそ2億8,000万人）
- D. 60人に1人（およそ8,000万人）



■クイズの答えと解説

Q1 世界では、どのくらいの子供が小学校に通っていないでしょう？ [答：B. 10人に1人]

10人に1人（＝およそ6,400万人）の子供が小学校に通っていません。途上国の人々、政府や国際社会は、教育予算の増加、学費の廃止、教員の質向上などに努め、学校に行けない子どもは2000年に比べておよそ半分に減少しました。しかし、この減少のうち4分の3は2004年の間に達成されたものであり、特に金融危機が起こった2008年以降、進展はほとんど見られていません。学校に通えていない子どものうち1,700万人の子供（全世界の小学生年齢の子どもの3%）は今後も就学する見込みがありません。

Q2 小学校に通えない理由にはどんなことがあるでしょう？ [答：全部正解]

すべて正解です。これらの背景には、教育への無理解や、女の子や障害のある子ども（障害児）など社会的弱者への差別、児童労働といった、さまざまな問題があります。特に女の子の場合には、学校や通学路が安全でないこと、水くみなどの家事労働の負担、学校に男女別のトイレや安全な飲料水がないこと、女子教員の不足などの理由が加わります。特に、小学校に通っていない世界の子どもの半数は、紛争地域に住んでおり、その割合は2008年から上昇しています。2005年～2015年の間に、少なくとも26か国において、学校や教育機関が軍事目的で利用されてきました。たとえばシリアでは、2016年までに4分の1以上の学校がなくなってしまいました。6,000以上の学校が破壊されたり、戦闘のために利用されたり、難民・避難民の家族の避難所として使うために閉鎖せざる得なくなったのです。

Q3 世界では、小学校に入学しても、途中で通うのをやめてしまう子どもたちが多くいます。

その割合はどのくらい？ [答：C. 15% (20人に3人)]

途上国の人々・政府や国際社会の努力で小学校の就学率は男女ともに大きく改善しました。しかし、一旦は入学できたとしても、貧困、家事労働や家族・地域の理解不足など、Q2と同様の理由から、小学校や中学校を中途退学せざるを得ない子どもたちがたくさんいます。特に、低所得国では41%が小学校を、68%が中学校を中途退学しています。また、教育の「質」も課題となっており、学校に通っているかどうかに関わらず、小学生を卒業する年齢までに、半分以上の子どもたちが基礎的な学力を身につけられていません。

Q4 すべての子どもが小学校に通い、よい教育を受けるためには「先生が足りない」といわれています。世界では、あと何人の「先生」が必要とされているでしょう？ [答：D. 340万人]

教育の「質」の改善は、先生（教員）にかかっています。しかし、途上国では適切な訓練を受けた教員が足りなかったり、教員への給料が不十分であったりという状況にあります。同時に、教員の質も問題となっています。特にサハラ以南アフリカ地域では、28%もの先生が教員訓練を受けていないのです。

Q5 世界では、読み書きができない「大人」がどのくらいいるでしょう？ [答：B. 7人に1人]

世界の大人（約54億人）の7人に1人にあたる7億5,000万人の人々は読み書きができません。そして、その6割は女性です。読み書きができないと、必要な情報を手に入れられないことで様々な不利益を被るばかりでなく、自分の意思や要求を書面で伝えられず、社会的な権利が大幅に制約されます。

出典：Global Education Monitoring Report 2019
<https://en.unesco.org/gem-report/taxonomy/term/210>

アクティビティ 2：識字

対象：小学生～大人

所要時間：30分

実施の難易度：★★★

■ねらい

1. 世界の非識字者の現状を知る。
2. 文字が読めないことを疑似体験する。
※小中学生対象と高校生以上対象と2種類あります
3. 文字が読み書きできない原因と問題点について考える。

■準備するもの

<おすすめ方1の場合>

1. 印刷ラベル（12頁）
2. コップ3つ→ペットボトルでも可
3. 水・塩・砂糖（少々）
→コップに水、塩水、砂糖水の3種類を用意しておきます

<おすすめ方2の場合>

1. 求人広告（13頁）

<必要に応じて>

1. 世界地図
2. 投影機材（パワーポイント資料を使用する場合）



昨年の様子（愛知県小牧市立村中小学校）

■おすすめ方

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|-------|--|---------|
| 1. 導入 | 「先ほどのクイズで、世界では7人に1人の大人が文字の読み書きができないということを知りましたが、文字の読み書きができないと、どんなことがあるでしょう？」など、問いかけの言葉ではじめる。 | |

このアクティビティのおすすめ方を動画でチェック！ https://youtu.be/0Em_TlzaQqg

実践者の声（2017年度アンケートより）

- ・ 識字のアクティビティは小中学校でも経験していた生徒がいたが、それでも字が読めないことのハンデを追体験できたことは、生徒にとって強い印象を残したようだ。
- ・ 分からないラベルの貼られた水を飲んだときに、「非識字」とはどういうことか理解していたと思う。
- ・ 3つのコップは大きな授業以外でも小学校で行っています。単純なものだと思うのですが、いつも大いに盛り上がります。
- ・ 識字について学びました。就活をしている専門学生にとって求人募集を読み取るワークを熱心に取り組んでいました。

くすすめ方 1 ～小中学生対象の場合・薬瓶を選ぶ～>

㊦

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|------------|---|--|
| 2.準備しておくこと | 塩水、砂糖水、普通の水を入れたペットボトルまたはコップをそれぞれ用意する。下のラベルを切り、塩水にはAのラベル「毒（ネズミ用の殺鼠剤）」、砂糖水にはBのラベル「熱冷まし」、普通の水にはCのラベル「栄養」を貼る。 | ご参考：それぞれの発音 A ムサ マルネ オウサディ B シタモル C ポサン |
| 3.音読 | 全体に向け、進行役は以下のストーリーを音読する。 | |
| 4.ワーク | グループまたは個人で、どのペットボトルの水を飲むか選んでもらう。挙手等で、どのボトルを選んだのか、なぜそのボトルを選んだのかを全体で共有する。それぞれの選択肢の中から1人ずつ代表者に出てきてもらい、実際に水を飲んでもらった後、それぞれのラベルの意味を伝える。 | 実際に水を飲んでもらうことで、「もし本当に飲んでしまったらどうするか」ということをより体感的に考えることができます。 |
| 5.振り返り | ボトルを選んだ時、ラベルの意味を知った時、どんな気持ちでしたか全体で共有する。 | |

ストーリー

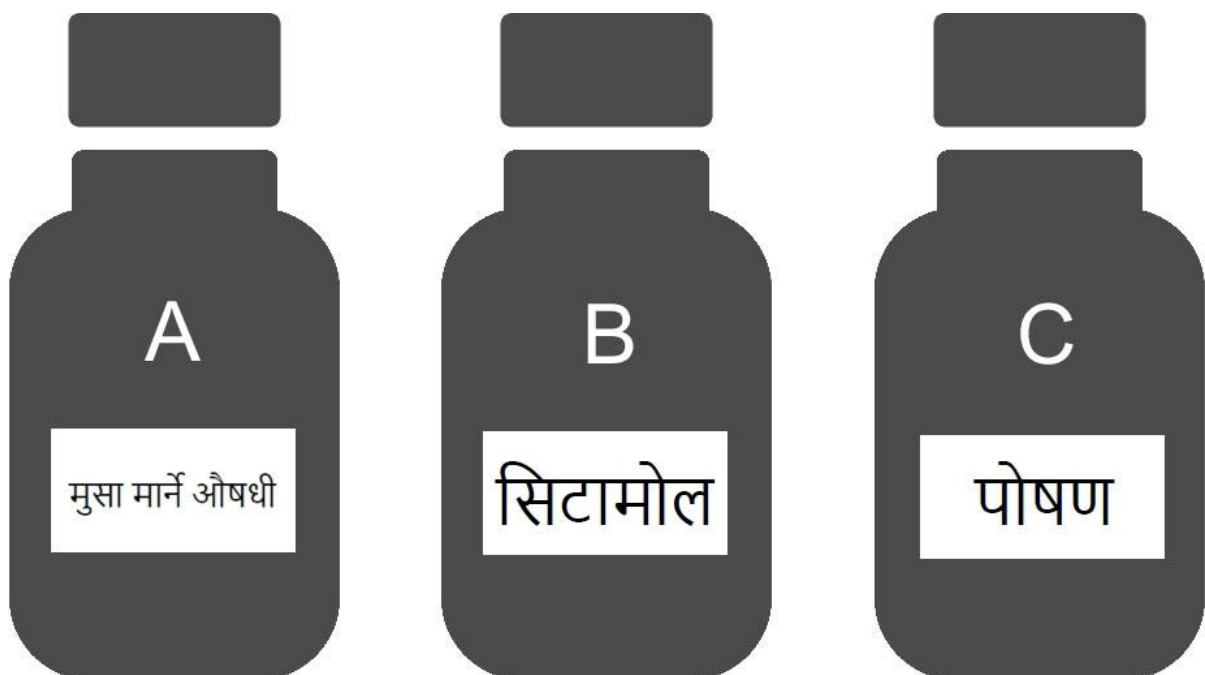
あなたのお母さんが高熱を出して苦しんでいます。でも、この村にお医者さんはいません。医者がいる町には、山道を1日歩いた上にバスに7時間も乗らなければたどりつけません。村では学校の先生の家に薬が少し置いてあり、困ったときには先生から薬をわけてもらっています。

先生の家を訪ねてみると先生は町まで出かけていて留守でした。戸棚には薬のビンがいくつかありますが、先生以外はビンの文字を読めません。いつも熱の出たときに使う薬と同じようなビンが3つありましたが区別が付きません。

印刷用ラベル

ラベルには、ネパールやインドで使われているデバナガリ文字を使って、

A: 「毒（ネズミ用の殺鼠剤）」、B: 「熱冷まし」、C: 「栄養」と書かれています。



＜おすすめ方2 ～高校以上対象の場合・就職先を見つける～＞

㊦

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|--------------|--|---------------|
| 2.準備しておくこと | 以下、3枚の求人広告A～Cをグループ数分印刷し、点線で左右（タイ語／日本語）に切り分けておく。 | |
| 3.個人/グループワーク | 各グループにそれぞれ左側のタイ語の求人広告を配付し、読む。その後、自分が仕事をするのであればどの求人に応募するかを選ぶ。 | |
| 4.発表 | どの求人を選んだのか、その理由を全体で共有する。 | |
| 5.共有 | 求人広告A～Cの日本語の意味を伝える。 | 日本語の意味を配ってもOK |
| 6.振り返り | 求人を選んだ時、広告の意味を知った時、どんな気持ちがあったか全体で共有する。 | |
| 7.問いかけ&話し合い | 次の問いかけをし、全体で話し合う。 「読み書きができないと、どんなことができないと思いますか？」 「文字が読み書きできるとどんなことができますか？」 できないこと の回答例:本が読めない／名前を書けない／計算ができない／地図が読めない／自信を持って行動できない できること の回答例:勉強ができる／本が読める／インターネットが使える／手紙が書ける／メールができる／SNSが使える／小説を書ける／自分の意見を表現することができる／新しい知識・情報を手に入れることができる | |

求人広告

Aは「給与がよい」、Bは「条件がまあまあ」、Cは「情報が不十分」な求人内容がタイ語で書かれています。

✂ キリトリ

| | | |
|---|---|---|
| A | ลักษณะงาน: งานในสำนักงาน ระยะเวลาทำงาน: 6 ชั่วโมงต่อวัน ค่าจ้าง: 550 บาท | 求人 A ・ 仕事内容: デスクワーク ・ 勤務時間: 6 時間/日 ・ 給料: 550 บาท |
| B | ลักษณะงาน: งานในสำนักงาน ระยะเวลาทำงาน: 10 ชั่วโมงต่อวัน ค่าจ้าง: 250 บาท | 求人 B ・ 仕事内容: デスクワーク ・ 勤務時間: 10 時間/日 ・ 給料: 250 บาท |
| C | ลักษณะงาน: พนักงานเสิร์ฟ ระยะเวลาทำงาน: 8 ชั่วโมงต่อวัน ระยะทาง: 500 เมตรจากสถานี | 求人 C ・ 仕事内容: ウェイター/ウェイトレス ・ 勤務時間: 8 時間/日 ・ 距離: 駅前徒歩 500 เมตร |

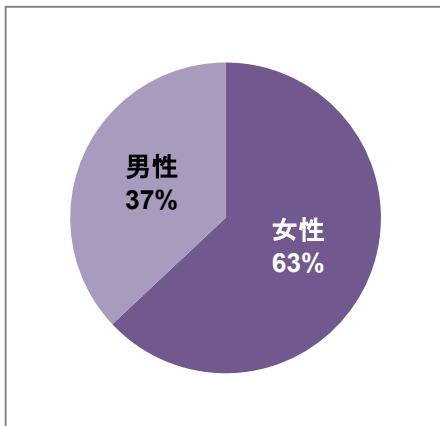
■解説：識字とは

識字とは？

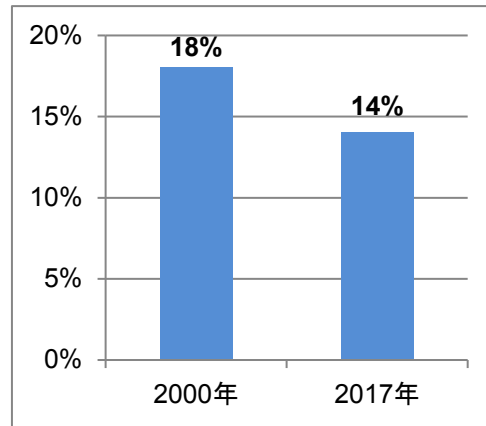
「識字」とは、日常生活に必要な「読み書き・計算」ができる能力のことです。現在、成人のおよそ7人に1人にあたる7億5,000万人の人々は読み書きができない「非識字」の状態です。以下の図の通り、2000年と比べて成人の非識字率は減少していますが、その理由は、識字率が上昇したというよりは、教育を受けたより若い年齢層の人たちが成人になったことによると分析されています。また、世界の成人非識字者のおよそ6割は女性です。

読み書きができないと、必要な情報を手に入れられないことで様々な不利益を被るばかりでなく、自分の意思や要求を書面で伝えられず、社会的な権利が大幅に制約されます。そのことが、本人ばかりでなく、国や地域の発展にとっても不利益になるという考えから、識字率は基礎教育の浸透状況を測る指針として、広く使われています。

成人の非識字者の割合（2017）

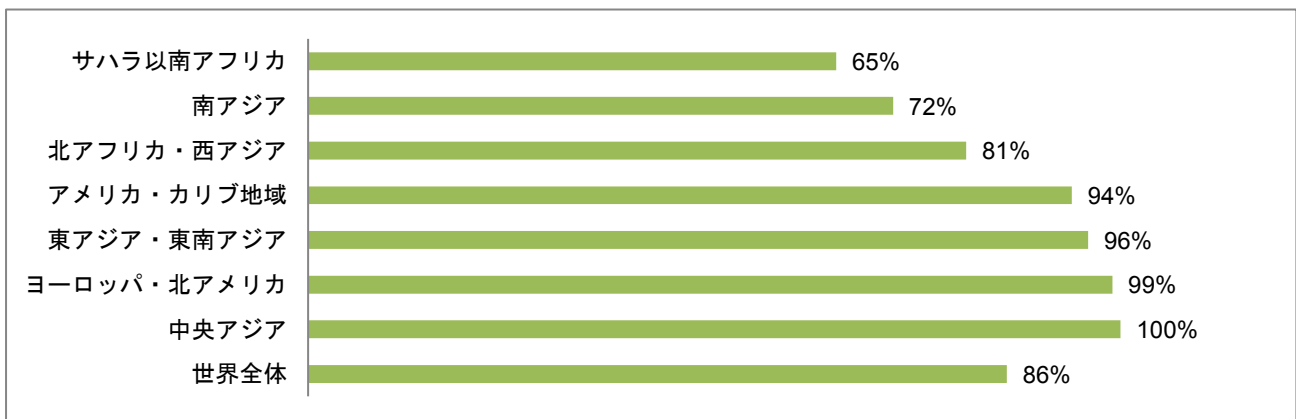


成人の非識字率の世界の傾向



成人識字の改善の大きな理由は、教育を受けた若者が成人になったこと。

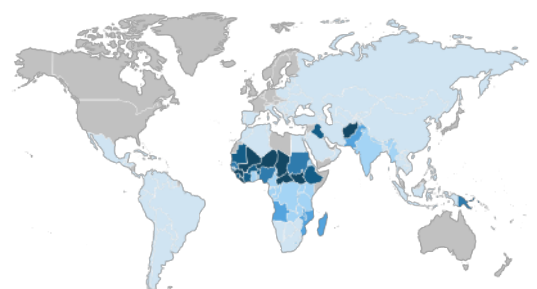
地域別成人識字率（2017）



出典：Global Education Monitoring Report2019 (<https://en.unesco.org/gem-report/taxonomy/term/210>)

■地図資料（識字率を表した世界地図）

- ・ユニセフ：「子どもと先生の広場」世界の子どもデータ「識字」
http://www.unicef.or.jp/kodomo/data/bod5_6.htm
- ・ユネスコ（英語／右図）：UNESCO eAtlas of Literacy
<https://tellmaps.com/uis/literacy/>



アクティビティ3：教育と資金

対象：小学生～大人
所要時間：30分
実施の難易度：★☆☆

■ねらい

1. 教育のための資金が十分でないことを知る。
2. 教育の普及のためには世界で協力する必要があることを知る。

■準備するもの

1. リボン（または紙テープ）25m 程度
→①6.8 cm、②40 cm、③1m30 cm、④19m10cm の4本に切る。
→大きめの封筒などにしまいリボンの長さが見えないようにする。
2. 印刷用ラベル（18頁）
3. 資料（18頁／適宜）
4. パワーポイント投影機材（適宜）

■すすめ方

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|------------|--|-------------------------------|
| 1.導入 | 「先ほどのクイズで、子どもたちが小学校に通えない理由について知りました。その中には、学校や先生の数が足りないなどの理由がありました。課題のいくつかは、教育にかける予算・資金が増えることで解決できるものがあります」など、導入の言葉ではじめる。 | |
| 2.クイズ | 以下クイズを2題出題し理解を深める。 クイズ1： 「開発途上国のすべての子どもが高校まで行けるようになるためには、年間いくら必要でしょう？」 ※ヒント：日本政府の2018年度の国家予算は97.7兆円（大学を含む教育・科学分野予算は5.4兆円） A. 約59兆円 B. 約37兆円 C. 約15兆円 クイズ2： 「その必要な37兆円のうち、日本を含む豊かな国はどのくらいの援助をする必要があるでしょう？」 A. 約11兆円 B. 約9兆円 C. 約4兆円 回答と情報の共有： 「世界中のすべての子どもが高校まで行けるようになるためには、年間約37兆円が必要です。このうち、33兆円は途上国政府が現在の教育予算である15兆円を約2倍増やす努力をすることによって負担することができますが、約4兆円が足りないため、日本を含めた豊かな国々が支援する必要があります」 | 答え：B. 約37兆円 答え：C. 約4兆円 |
| 3.リボンの長さ比べ | リボンの長さを比べて、教育費の少なさを考えるワークを実施する。 | |

| | | |
|-------------|---|---|
| | <p>1.「世界中のすべての子どもが高校まで行けるようになるために必要な年間援助額の4兆円とはどのくらいの金額でしょう？世界のゲームソフト市場の規模、世界の軍事費と比べてみましょう」と伝える。</p> <p>・生徒2人×3ペア（合計6人）に前に出てきてもらい、巻いたリボンを1本ずつ渡す。生徒にリボンの先端を持ってもらい、①から順番に引っ張ってもらい、長さを比べる。</p> <p><各リボンの長さの意味></p> <p>①世界の子どもが高校まで行くのに必要な援助額： 4兆円→40cm</p> <p>②世界のゲームソフト市場：13兆3,800億円→1m30cm （出典：Global Game Market Report2018／https://newzoo.com/）</p> <p>③世界の軍事費：191兆円→19m10cm （出典：SIPRI Military Expenditure Database／https://www.sipri.org/）</p> | <p>リボンの長さが教室全体に見えるように、長いリボンは移動しながら真っ直ぐになるように引っ張ると、より効果的になります。また、巻いたリボンは封筒や箱に入れるなどして、全体の長さが分からないようにしておくと、引っ張ったときの驚きが大きくなり、効果的です。</p> |
| 4.問いかけ | <p>「世界の軍事費 8日分のお金で、世界中の子どもが1年間学校に通うことができる」ということを伝える。</p> | |
| 5.実際の援助額を知る | <p>「必要とされている援助額は、①のリボンの長さ=4cmですが、実際におこなわれている援助の額どのくらいかという」と言いながら、6.8cmのリボンを取り出し、見せる。その後、「現状の援助額は6,800億円で、あと3兆3,200億円ほど援助を増額する必要がある」ことを伝える。</p> | |
| 6.振り返り | <p>リボンの長さを比べて、どう感じたか全体に質問する。</p> | |
| 7.意見交換 | <p>教育のための資金が増えることでどのようなことが可能になると思うか、全体に質問する。</p> | |



昨年の様子（左：嶺南学園敦賀気比高等学校附属中学校 中：よこよんカフェ 右：香港日本人学校グローバルクラス）

実践者の声（2017年度アンケートより）

- ・ 軍事費の大きさにどのクラスも、驚いていた。
- ・ リボンを使って軍事費と教育に必要なお金の比較をしたときにみんなの関心が集まりました。
- ・ 教育と資金の所では、軍事資金の多さと教育資金の少なさに驚きを感じている子どもがたくさんいました。
- ・ 生徒たちから最も大きなどよめきが起こったのは、軍事費のテープが長〜く出てくる場面でした。
- ・ 教育資金のパートもスズランテープを用いたことで視覚的にもはっきり捉えることができ、生徒自身で何かを考えるキッカケになったように感じた。

■解説：教育のための資金について

持続可能な開発目標（SDGs）ゴール4（2・3頁参照）の中では「高校まで通えるようになること」や「質の高い教育を確保すること」などが新たに加わりました。開発途上国の全ての子どもが学校に通うために必要な資金である37兆円のうち、33兆円は、途上国政府が現在の教育予算（約15兆円）を2倍に増やすことで負担できます。途上国政府の努力による教育予算の増額は、経済成長や徴税制度の改善による税収の増加により可能といわれています。

それでも4兆円は不足するため、国際援助が必要です。4兆円は、世界の軍事費の8日分にすぎません。しかしながら、現状の基礎教育への支援額は、約6,800億円と少額です。日本を含む豊かな国は、全体であと3兆3,200億円ほど援助を増額しなければなりません。援助額を国の豊かさ（先進国の国民所得に占める日本の割合である9.96%）に応じて分担したとすると、日本は約3,800億円を援助する必要がありますが、現在の日本の基礎教育・中等教育分野への援助額は、約377億円（2016年）となっています。

また、日本の政府開発援助（ODA）のうち、基礎教育・中等教育分野の援助額の割合は2.2%（2016年）で、他の国の平均の4.5%（2016年）と比べ少ない割合となっています（参照：47,48頁）。

一方、世論調査の結果によると、「ODA（政府開発援助）はどの分野に必要だと思いますか」という質問に対して、最も多かったのは教育（47%）で、貧困削減（44%）、飢餓対策（43%）、保健（41%）と続いています（出所：『国際協力に関する調査報告書』、財団法人国際協力推進協会、2011年）。

SGDs・ゴール4を達成するには、途上国政府も豊かな国もさらに努力が必要です。途上国政府は教育にかける予算を2倍に、豊かな国は教育の援助額を6倍にする必要があるといわれており、世界の国々が力を合わせることを求められています。

なお、日本を含む高所得国の教育費は330兆円で、世界全体の教育費の65%を占めています。一方、最も貧しい低所得国の教育費は2兆4,200億円で、世界全体の教育費の0.5%にすぎません。高所得国の子どもと低所得国の子どもの数がほぼ同じであるにも関わらずです。

出典：

- ・ OECD CRS system（2019年1月閲覧）、EFA グローバルモニタリングレポートチームの推計値
- ・ EFA グローバルモニタリングレポート ポリシーペーパー18
Pricing the right to education: The cost of reaching new targets by 2030
<http://unesdoc.unesco.org/images/0023/002321/232197E.pdf>
- ・ Global Education Monitoring Report2019 <https://en.unesco.org/gem-report/taxonomy/term/210>



昨年の様子（左：沖縄県高良診療所 右：地球市民共育塾ひろしま）



教育



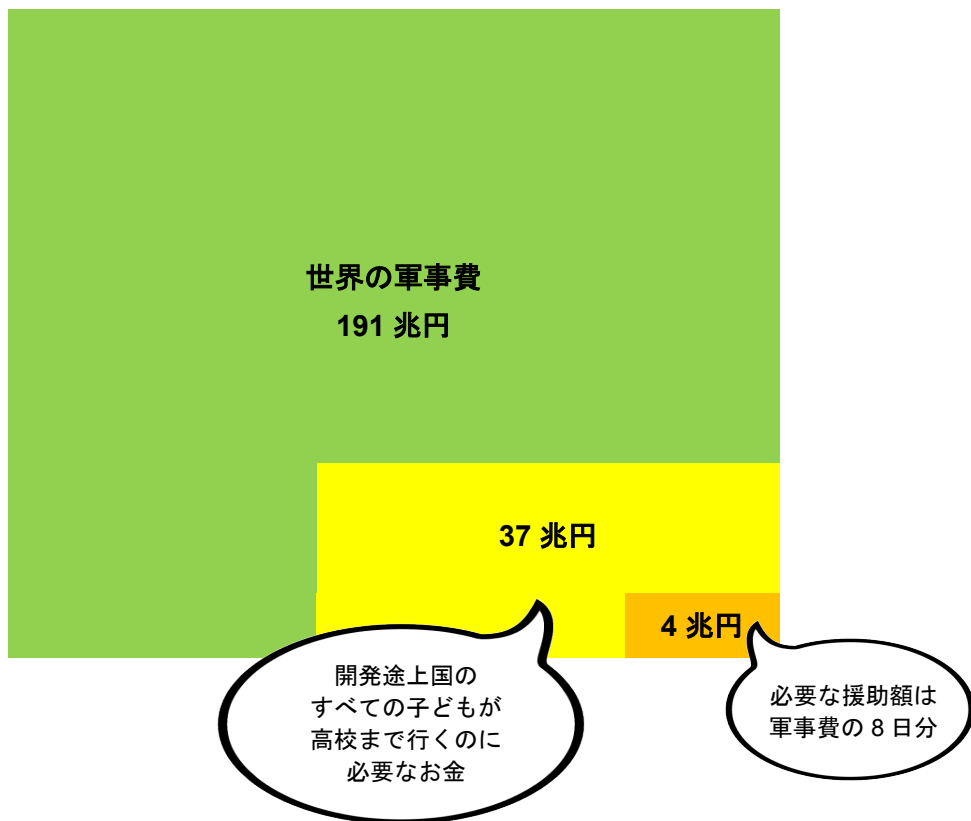
ゲーム



軍事費

■資料

世界の子どもたちが教育を受けるために必要なお金と軍事費の比較図



このアクティビティのすすめ方を動画でチェック！ https://youtu.be/0Em_TlzaQqg

アクティビティ4： 行動する子どもたちのストーリー&動画

対象：小学生～大人

所要時間：30分

実施の難易度：★★★

■ねらい

1. 現状を変えるために、子どもたち自身や日本の団体が活動していることを知る。
2. 子ども自身もつパワーや社会変革のために自分でもできることがあることに気づく。

■準備するもの

1. ストーリー1または2（23・24頁）：2種類のうちどちらかを1人1枚
2. ワークシート（25頁）1人1枚
3. 動画（適宜／20～22頁で7本の動画をご紹介します）
4. 動画投影機材（適宜）

■すすめ方 ※動画を観るだけでも、ストーリーを読むだけでもかまいません。

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|------------|---|---|
| 1.導入 | 「先ほどのクイズで、子どもたちが小学校に通えない理由について知りました。課題のいくつかは、教育にかける予算・資金が増えることで解決できるものがあります」など導入の言葉で始める。 | |
| 2.動画を観る | 「課題に直面する子どもたちはどう思っているのでしょうか？」等と呼びかけ、動画（20～22頁参照）のどれかを見る。 | |
| 3.ストーリーを読む | 次のストーリー2種のうちどちらかを1人に1枚配付する。生徒・参加者は黙読する。 ・23頁：マララ・ユスフザイさんのスピーチ ・24頁：日本の子どもたちのストーリー 子どもの問題に子どもが取り組む「フリー・ザ・チルドレン」 | 「大切だとおもったところ」や「もっと知りたいこと」など、下線を引きながら読んでもいい。 |
| 4.内容確認 | わからない言葉や理解しにくい点があれば挙げてもらい、全体で確認する。 | |
| 5.個人ワーク | ワークシート「わたしの気持ちは…」（25頁）を1人1枚配付する。 | |
| 6.グループ共有 | 4～6人の小グループで1人ずつ順番に記入したことを発表し、共有する。 | |
| 7.全体共有 | 全体で共有する。 | |

実践者の声（2017年度アンケートより）

- ・ マララさんのスピーチを見せた。短時間でもわかりやすく、感銘を受けていた。
- ・ 行動する子どもたちのストーリーに感銘を受けた生徒が多かった。
- ・ ビデオに生徒はとても真剣に見入っていました。
- ・ 動画教材は現状認識、問題点抽出、現状対策認識をカバーしていて、初めて知る生徒にとっても親切でした。

世界の子どもたちの動画 ～様々な教育課題に直面する子どもたち～

以下でご紹介する動画は、様々な教育上の課題に直面する子どもたちに関する動画です。それぞれの課題に対して子どもたちがどう思っているのかのインタビューや、今後それが改善されていくことへの希望が紹介されています。

どれも5～10分程度の短い動画なので、「動画概要」をご確認いただき、好きな動画を1つ鑑賞してみてください。実際の子どもたちの様子が分かる映像を見ることで、授業参加者の現状理解を深めることができます。なお、本アクティビティを実施しない場合でも使っていただける動画ばかりですので、是非ご活用ください。

■動画1 フィリピンの働く子どもたち (14分37秒)

📺 : <https://youtu.be/BQCSJm8qGml>

<動画概要>

- ・NGO フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでボランティアをしている日本の高校生が、フィリピンを訪れ、現地で仕事をする子どもたちにインタビューをした様子がまとめられた動画です。
- ・高校生のナレーションとともに、NGOの支援で夜は学校に行くことができるようになってはいるものの、働かなくてはならない子どもたちの現状について知ることができます。

<動画制作>

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン



■動画2 モンゴルをのぞいてみよう NEW ～働く子どものための図書館建設～ (10分39秒)

📺 : <https://youtu.be/R0ztjtx2Wbl>

<動画概要>

- ・NGO フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでボランティアをしている日本の高校生が、モンゴルを訪れ、現地で仕事をする子どもたちにインタビューをした様子がまとめられた動画です。
- ・日本の高校生によって図書館建設支援をしました。この動画では、教育を受けられない子どもたちの現状をインタビューを通してお伝えしています。

<動画制作>

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン



■動画3 インドのスラム街を走る教室（2分26秒）

📺 : <https://youtu.be/uJ-K6xd3q-l>

<動画概要>

- ・インドのムンバイでは、40%以上の世帯が、スラムで生活しています。（2016年、プラン・インターナショナル・ジャパン調べ）

家計を支えるために働く子どもたちは学校に行くことができません。そこで、地元の教育支援団体と日本のNGOが協働で子どもたちのもとを訪れる移動式の学校を開設、そこで勉強する子どもたちや教える先生の様子をまとめた動画です。

- ・市場でエビの皮むきの仕事をする女の子バハルティさん、朝5時から10時まで働く男の子シャヒドゥルさんも、この移動バス教室で勉強しています。「勉強するのが好き」「先生は私たちを大切にしてくれる」と喜んでいきます。

<動画制作>

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン



■動画4 シエラレオネ・車いすのパロミーさん、初登校の朝（2分19秒）

📺 : <https://youtu.be/SD2wvNmD2Pk>

<動画概要>

- ・シエラレオネの女の子、パロミーさんが病気を患い車いすになってから初めて学校に行った時の様子です。学校の先生のサポートもあり、パロミーさんは初日は緊張していましたが、直ぐに友だちをつくることができました。
- ・障害の有無に関係なく同じ権利がある。そのために、障害のある人たちは何が困っているか耳を傾けてほしい、とパロミーさんは言います。

<動画制作>

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン



■動画5 行動し発言する子どもたち 国連でのマララさんのスピーチ（5分）

📺 : <https://youtu.be/PiDNjF2AEbs>

<動画概要>

- ・2015年9月25日「持続可能な開発サミット」のオープニングで、マララさんがおこなったスピーチの様子です。サミットに集まった193人の各国リーダーに向けて、193名の若者とともに質の高い教育の必要性を訴えます。
- ・マララさんは自身の過去の悲劇、世界で起こっている子どもたちを取り巻く悲惨な現状について語ります。シリア難民であるサラムさんと、ボコ・ハラム（ナイジェリアに拠点を置くイスラム過激派組織）に姉妹が連れ去られたラミーナさんを紹介し、子ども達が性別関係なく安全な教育を受けられるようにすることこそが世界のリーダーが行うべき投資だと求めました。

※23頁に掲載のスピーチとは異なる内容です

<動画制作>

国際連合広報センター



■動画 6 行動し発言する子どもたち

NEW

グreta・トゥーンベリさんによる COP24 でのスピーチ

(3分29秒)

📺 : <https://youtu.be/h-ICELS3NPg>

<動画概要>

- ・2018年12月12日、ポーランドのカトヴィツェで開催された COP24（気候変動枠組条約第24回締約国会議）において、スウェーデンの環境活動家、グreta・トゥーンベリさん（15歳）が気候変動の危機を世界に訴えました。

<動画制作>

国際連合広報センター



■動画 7 行動し発言する子どもたち

NEW

セヴァン・スズキさんによる地球サミットでのスピーチ

(3分29秒)

📺 : <https://www.youtube.com/watch?v=T9YaagLB5Fg>

<動画概要>

- ・1992年6月、ブラジルのリオデジャネイロで開催された「国連環境開発会議」（地球サミット）で、セヴァン・スズキさん（カナダ、当時12歳）が地球環境の危機と解決のための責任ある行動を世界に訴えました。
- ・「元に戻せないなら、これ以上壊さないでください (If you don't know how to fix it, please stop breaking it!)」など、力強いメッセージの数々が含まれ「伝説のスピーチ」と呼ばれています。

<動画制作>

国際連合広報センター



■動画 8 持続可能な開発は教育から (2分6秒)

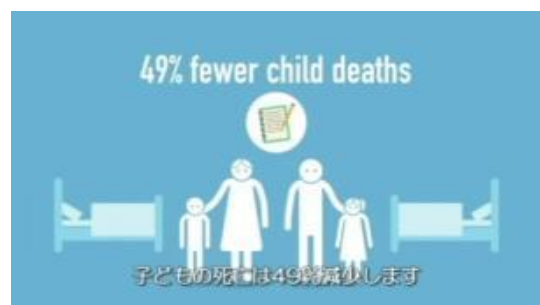
📺 : https://youtu.be/F_3aoq491DI

<動画概要>

- ・貧困や飢餓、乳幼児の死亡等世界で起きている問題の多くを解決するために、教育が必要であることを説明するアニメーションです。「もしすべての女性が中等教育を受けていけば、子どもの死亡率は49%減少します」等、具体的数値を持って教育の大切さを説いています。
- ・すべての子ども、若者、成人への質の高い教育への投資は、教育目標の達成だけでなく、持続可能な開発目標の達成のために必要不可欠であることが分かります。

<動画制作>

国際連合広報センター



マララ・ユスフザイさん ノーベル平和賞授賞式でのスピーチ（抜粋）2014年12月10日

この賞をいただく最初のパシュトゥン人、最初のパキスタン人、そして最年少であることを、とても誇りに思います。

この賞は、私だけのものではありません。教育を望みながら忘れ去られたままの子どもたちのものです。平和を望みながら、おびえる子どもたちのものです。変化を求めながら、声を上げられない子どもたちへの賞なのです。



©A World at School 2013

15年前、世界のリーダーたちは地球規模の目標

「ミレニアム開発目標（MDGs）」を決めました。

その後、いくらかは進展しています。学校に通えない子どもの数は半分に減りました。とはいえ、成果が全員に行き届いたわけではありません。来年、2015年には、世界のリーダーたちが国連に集い、次の目標である「持続可能な開発目標」を策定します。これは、何世代にもわたる世界の目標になるでしょう。

世界のリーダーたちは、「開発途上国の子どもたちには初等教育だけで十分だ」と思わないでください。自分たちの子どもには、数学や科学、物理などをやらせていますよね。リーダーたちは、全ての子どもに対し、無料で、質の高い初等・中等教育を約束できるように、この機会を逃してはなりません。

いわゆる「大人の世界」であれば理解されているのかもしれませんが、私たち子どもにはわかりません。なぜ、私たちが「強い」と呼んでいる国々は、戦争をすることに力を注いでしまうのに、世界を平和にすることに努力しないのでしょうか？なぜ、銃は簡単に与えてしまうのに、教科書は与えないのでしょうか？なぜ、戦車は簡単につくってしまうのに、学校は建てないのでしょうか？

現代に暮らす中で、私たちはみな、不可能なことはないと思っています。

45年前に人類は月に到達し、おそらく火星にもまもなく降り立つでしょう。

それならば、この21世紀には、全ての子どもたちに質の高い教育を与えられなければなりません。

私たちは動くべきです。待っていてはいけません。政治家や世界のリーダーだけでなく、私たち全ての人が、貢献しなくてはなりません。私も、あなたたちも、私たちも。それが私たちの務めなのです。

みなさん、これで終わりにしようと思った最初の世代になりましょう。

誰もいない教室も、失われた子ども時代も、無駄にされた可能性も。

男の子や女の子が子ども時代を工場で過ごすのも、もうこれで終わりにしましょう。

女の子が幼いうちに強制的に結婚させられることも、戦争で子どもの命が失われることも、子どもが学校に通えないことも、これで終わりにしましょう。

私たちが終わらせましょう。この「終わり」を始めましょう。

今、ここから、ともに「終わり」を始めましょう。■

日本の子どもたちのストーリー 子どもの問題に子どもが取り組む「フリー・ザ・チルドレン」

「世界のために自分にできることをやってみたい！」
という思いで活動している子どもたちが日本にもいることを知っていますか？

世界の全ての人々が誰一人取り残されない社会を目指して、子ども達と共に活動する「フリー・ザ・チルドレン」という団体があります。この団体を設立したのは、なんと 12 歳の子どもでした。

カナダのクレイグ・キールバーガーはある朝、マンガを読もうと新聞を開いたところ、ある記事を目にしました。4 歳の時から工場できびしい労働をさせられていた、自分と同年のパキスタンの子どもが解放され「児童労働反対」を訴えていましたが、何者かに射殺されてしまったという内容でした。クレイグは、これを読んで強いショックを受けました。

そこで、子どもだからこそ子どもの問題に取り組もうと立ち上がり、クラスメイトに呼びかけたところ、11 人の仲間が集まり、「フリー・ザ・チルドレン」を設立することが出来ました。

たった一人の子どもから始まった活動は、やがて国際的なネットワークとして広がり、カナダ以外にもアメリカ、ヨーロッパ、日本など 45 カ国以上で、230 万人以上の子どもたちが活動してきました。「子どもにできることなんて無いよ」と言われたクレイグですが、「子どもだからこそできることがある」と信じ、活動をあきらめることなく続けた結果、途上国に現在まで 1,000 校以上の学校建設を行い、毎日 20 万人以上の子ども達が学校に通えるようになりました。

また、日本では、子ども達が「世界一大きな授業」を国会議員向けに毎年実施しています。中学生、高校生が「先生」役、国会議員「生徒」役になって行う一風変わった特別授業です。子どもたちが放課後に何度も集まって内容を考え、実施しています。2018 年度は 6 月 6 日（水）に衆議院第一議員会館で開催され、国会議員 24 名が参加しました。

先生役を務めた子どもたちは「今まで教育支援というと寄付や学校を建てるというようなものでしか考えられていなかったが、今回、国に働きかけるという方法を知り、自分の視野を広げることができた。また、授業後の反応から今回国会議員の方に伝えたかったことはある程度伝えることができたと思う。しかし、実際に行動に移してもらうことが最も大切だと思うのでこれからは行動に移してもらうように働きかけることが必要だと思いました」と語っていました。

一人ひとりが自分の思いをもって活動することで世界は変えられます。そうした思いを持った活動の輪は日本全国、そして、世界各地とつながり、広がり続けています。あなたも一緒に良い世界を作ってみませんか？ ■



児童労働の問題を企業や政府にうったえるための署名を手にしたフリー・ザ・チルドレンのメンバー。後列中央がクレイグ。



国会議員のための世界一大きな授業 2018

わたしの気持ちは…

ストーリーを読んで、今の自分の気持ちに近いもの3つに○をつけてみよう。

この中になければ、欄外に自分の「気持ち」を書いてみよう。

| | | |
|--------------|--------|------------|
| おどろいた | すごい | かわいそう |
| 腹が立つ | わからない | 心配だ |
| 自分には 関係ない | 納得できない | わくわく する |

○をつけた理由

アクティビティ 5 : ちがいのちがい SDG4バージョン

対象：中学生～大人

所要時間：45分

実施の難易度：★★☆

■ねらい

1. 世界と日本の教育をめぐる現状や課題を知る。
2. SDGsのゴール4「質の高い教育をみんなに」には、どのような目標が掲げられているのかを知る。
3. 地域やジェンダー、障害の有無、人種や民族、おかれている状況や貧富の格差などを理由に見逃されがち、あるいは「仕方がない」と思われがちな問題について考え直すきっかけとする。
4. ゴール4を日本に暮らす自分たちに身近なものとして捉えるきっかけとする。

■準備するもの

- ・ カード（27頁/4～6人の小グループあたり1セット用意し点線で切り離しておく）




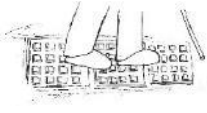





■進め方

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|----------|--|--|
| 1.導入 | グループにカードのセットを裏返しにして配る。 | |
| 2.ルールの説明 | グループ内で1枚カードを引き、読みあげる。書かれている事柄について話し合いながら「あってもいいちがい」だと思うか「あってはいけないちがい」だと思うか、理由も出し合いながら分類する。どうしても分類できなかったものは「どちらともいえないちがい」に分類する。 | 「1人3枚ずつ」など、分担を決めて1人で分類するのではなく、必ず、1枚ずつ引き、グループの全員で読み、話し合いながら分類することが大切です。 |
| 3.カードの分類 | 1枚が終わったら、次の1枚のカードを引き、カードがなくなるまで繰り返す。 | 必ず「なぜ、そう思うのか」理由を話し合しましょう。 |
| 4.整理 | すべて終わったら、「あってもいいちがい」「あってはいけないちがい」に共通する事柄や判断のポイント、特に意見が分かれたカードや、印象に残ったカードについてグループ内で話し合いながらまとめる。 | カードの分類が終了したグループから個別に指示を出してもかまいません。 |
| 5.発表・共有 | 全体に発表し、共有する。意見の分かれるカードがあった場合は、そのカードについて話し合う。 | |
| 6.まとめ | 必要に応じて解説しながら、SDGsのゴール4の内容を紹介する。 | |

※このアクティビティは『新しい開発教育のすすめ方』（古今書院、1995年）掲載の「ちがいのちがい」を参考に作成しました。

実践者の声（2017年度アンケートより）

- ・ 「ちがいのちがい」で自分の意見をあまり言わない子が、教育に関して積極的に意見していた。
- ・ 「ちがいのちがい」では、自分なりの判断基準で考えようとしている生徒たちが多かった。なぜそう思ったのか、自分の感じ方考え方を素直に話し合う姿が印象に残った。
- ・ 「ちがいのちがい」では、意見が様々出てきて興味深かった。
- ・ 「ちがいのちがい」は、価値観の多様性容認と権利侵害撲滅の両方を考える課題だったので、生徒が真剣に取り組んでいました。

| | | |
|--|--|--|
| <p>1. ルワンダの女の子フランソワーズさんは家族から「女の子は学校にいかなくていい」と言われたが、同級生の男の子ジャンさんは言われたことはない。</p>  | <p>2. タカフミさんは地元の中学校に通っているが、同い年のトオルさんは隣のフリースクールに通っている。</p>  | <p>3. 日本の学校は教育や地域活動、災害時の避難場所として利用されるが、アフガニスタンの学校は軍の拠点として利用されることがある。</p>  |
| <p>4. 南スーダンの高校生・アブドゥルくんは、難民としてエチオピアに逃れ、これからどこに暮らすのか、医者になる夢を叶えるための大学に進学できるかどうかも分からないままだが、同じ年の日本のナオコさんは、進学したい専門学校を決め、準備を進めている。</p> | <p>5. 全盲の日本の中学生、ユカリさんは、地域の盲学校に通っているが、フィリピンに暮らす全盲のマリアさんは、地域に盲学校がなく、学校に通うことができない。</p>  | <p>6. ブラジルの高校生のロナウドさんは、卒業後に大学進学を目指しているが、アメリカの農業高校に通うトムさんは、卒業後に酪農家になりたいと考えている。</p>  |
| <p>7. 日本の中学校には1クラスあたり平均33人の生徒がいるが、韓国では平均35人、ブラジルでは平均25人、スイスでは平均20人だ。</p>  | <p>8. アルゼンチンのカルロスくんは、最寄りの中学校まで片道2時間かけて馬に乗って通っているが、フランスのマリーさんはスクールバスで10分の中学校に通っている。</p>  | <p>9. 文字の読み書きのできる大人の割合は、中央アジアでは100%だが、南アジアでは72%、サハラ以南アフリカでは65%だ。</p>  |
| <p>10. 西アフリカのシエラレオネの女の子・ファトマタさんは14歳で結婚させられ、中学校を退学したが、同じ年の日本の中学生・エイコさんは、まだ「結婚しなさい」と言われたことはない。</p>  | <p>11. 「幸せだと感じていますか？」との質問に、南米のコロンビアでは85%の人が「幸せ」と答えたが、日本では52%だった。</p>  | <p>12. ガーナの10歳の男の子・エマヌエルさんは、カカオ農園で働き、学校に通っていないが、同じ年の日本のタケシさんは6歳の時からずっと小学校に通っている。</p>  |

■ポイントー話し合いの過程を大切に

- ・ 早く分けようとすることや、直感で分けるのではなく、なぜそう思うのか、理由を話し合いながら作業をする過程（プロセス）自体を目的としたアクティビティです。
- ・ 正解はありません。しかし、実践者によっては「同じ答えに導きたい」「正解がほしい」と強く思う場面もあるでしょう。実践者がカードの背景を知っておくことは重要ですが、カードの意味を限定してしまっただけの「知識伝達作業」になってしまいます。
グループによってカードの分類が違うのは当然のことです。
議論するプロセスの中で、世界と日本の教育をとりまく問題に目を向けたり、よりよい教育のあり方を考えたりすることができれば十分です。
- ・ 急いで全てのカードを分類するよりも、途中まででもよいので、しっかり話し合いをすることを優先してください。
- ・ 「あってはいけないちがいがい」に共通するのは、人権が守られていない状態や人権に関わること、その人の力だけではどうにもならないことが多いと思います。学習者は、「ちがいがい」というよりも、カードの事例そのものが人権に関わることであると気付くでしょう。
- ・ カードの意味や内容について気になる部分に線を引き、それぞれ、事後学習として調べてみることもできます。



1枚毎にグループでの話し合いを深めましょう

■解説と話し合いを深めるポイント

<全体を通して>

- ・ SDGsの特徴は、「開発途上国」だけでなく、日本も含むすべての国々が達成すべき目標であることです。特に、この教材で焦点をあてているゴール4「質の高い教育をみんなに」では、日本も目指すべき教育目標が掲げられています。SDGsは「どこか遠いところのことがら」なのではなく「自分にも、この教室にもあてはまること」なのです。
- ・ 地域やジェンダー、障害の有無、人種や民族、おかれている状況や貧富の格差などを理由に「あっていいちがいだ」あるいは「仕方がない」と分類される傾向があるかもしれません。そんなときは、もしも、自分がその立場にいて、「仕方がない」と言われたらどう思うか、「自分で選んだり決めたりすることができなかつたらどう感じるか」、問いかけてみましょう。
- ・ 文化の違いだから、その国制度だから、「あっていい」「仕方がない」という意見もあるかもしれません。それは、本当に文化の違いなのか、人権が尊重されている制度なのか、問いかけてみるとよいでしょう。

<各カードについて>

1. 国や地域で文化や考え方が違うのだから「あっていいちがいだ」という意見もあれば、「女の子だから」という性別による理由で教育を受けることができないのは「あってはいけないちがいがい」という意見もあるでしょう。フランソワーズさんやジャンさん自身はどう思っているのでしょうか。また、「学校に行きたいのに、行けない」場合はどうでしょう。SDGs・ゴール4では「男女の区別なく」「ジェンダー格差なく」、すべての子どもが教育の機会にアクセスできることを目標としています。
2. トオルさんはなぜ、地元の公立学校ではなく、フリースクールを選んだのでしょうか。「学校でいじめにあったから」「学校が合わなくて不登校気味だったから」「外国にルーツを持ち、日本語が不自由だったから」…？その理由は分かりませんが、様々な理由が憶測されるかもしれません。世界に目を向けると、「学

校に通う＝教育の機会」ではなく、フリースクールやホームスクーリングなど、様々な選択肢が保障されています。一方で、学校も、その他の教育の機会にもアクセスできない状況にある地域もあります。大切なのは、学ぶ人自身が、自分にあった学びの環境を選べることもかもしれません。日本でも、2016年12月に「教育機会確保法」が可決され、学校外での「多様で適切な学習活動」の場がより保障されることになりそうです。

3. アフガニスタンなどの紛争地域の多くでは、学校が軍事拠点として占拠されたり、攻撃を受けたりして、子どもたちから教育の機会が奪われています。戦争や紛争は、教育に直接的に影響を及ぼします。SDGs・ゴール4では「安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする」ことを目標としています。また、「教育を攻撃から守る世界連合（GCPEA）」は、学校を武力紛争などの攻撃や軍事利用から守るための「学校保護宣言」を策定し、各国政府に支持を求めてきました。2019年時点で83か国が支持していますが、日本政府は支持していません。
4. 難民となり、他国に逃れたアブドゥルくんの家族は、いつまで、エチオピアの難民キャンプにいるのか、この後、どの国や地域で暮らすことになるのか全く予想することができません。アブドゥルくんは、医者になるという夢を持っていましたが、そのための勉強をすることも、計画を立てることもままならない状態が続いています。紛争などの影響を受け、移動せざるを得ない状況にある子どもたちは、その人生に大きな影響を受け、方向転換を余儀なくされています。
5. SDGs・ゴール4では「障害者」など脆弱な環境にある子どもたちも平等に教育の機会にアクセスできることを目標としています。
6. SDGs・ゴール4では、すべての子どもが高等教育（高校まで）を修了することを目指しています。そして、仕事に必要なスキルを身につけられることを目標としています。「大学で学びたい」「エンジニアになりたい」「農業をやりたい」…。自分の進む道を、子どもたちが自分で選択できることも大切です。
7. 「クラスの数が多い方が、友だちがたくさんできていい」「少なすぎるのも寂しい」と言った意見もあるでしょう。では、先生の立場に立ってみたら、何人くらいがよいでしょうか？進行する先生自身が、自分の意見を言うのもよいかもしれません。教員ひとりあたりの児童・生徒数、クラスあたりの児童・生徒数は「教育の質」に影響します。その数が少ないほど、一人ひとりの児童・生徒に教員の目が行き届きやすくなり、よりよい教育の機会が与えられることになると考えられています。日本はOECD諸国の中では、クラスあたりの児童・生徒数が多い傾向にあります。
8. カルロスくんは、遠くにある中学校まで、片道2時間かけて通っていますが、世界には、学校が遠すぎて通うのをあきらめてしまう子どもたちもいます。
9. SDGs・ゴール4では、2030年までにすべての人が識字（読み書きと基本的な計算ができること）を目指しています（→アクティビティ2参照）。
10. 世界には「早すぎる結婚・妊娠」により、学校を退学せざるを得ない女の子たちがいます。習慣として、10代前半の女の子が年の離れた男性と強制的に結婚させられてしまうのです。女の子が教育を受けることで、将来産む子どもが5歳まで生きられる確率が上がったり、HIVに感染する確率が減ったりと、家族や地域へのよい影響を与えるというデータが出ています。
11. 「幸せ」とはなにか？大きな視点で、さまざまな意見交換をしてみましょう。
12. 貧しさから、あるいは、安い労働力として、大人と同じように働き、学ぶ機会を奪われている「児童労働」状態にある子どもたちがいます。エマヌエルさんが育てたり収穫したりしたカカオからできたチョココレートを、タケシさんは何も知らずに食べているかもしれません。SDGs・ゴール4では「すべての子ども」が、質の高い教育を受けられることを目標にしています。「児童労働」が存在する限り、その目標を達成することはできません。

■ねらい

1. 日本で起こっている身近な教育問題が SDGs の目標と関連していることに気づく。
2. ひとつの問題に複数の目標が関連していることに気づく。
3. SDGs を身近に感じ、関心を持つ。

■準備するもの

- ・ ワークシート（32 頁／人数分コピーする）
- ・ 資料：ゴール 4 の解説（3 頁／必要に応じてご利用ください）
- ・ 資料：SDGs 資料（4 頁／必要に応じてご利用ください）

※高校生以上で事前に SDGs についての事前学習をしている場合は、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を資料として使用するのもおすすめです。

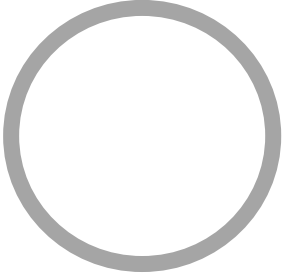
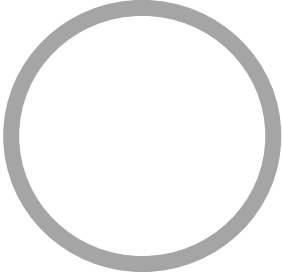
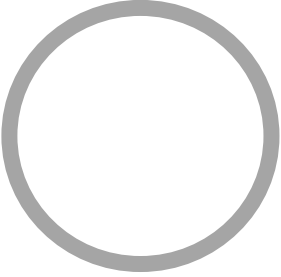
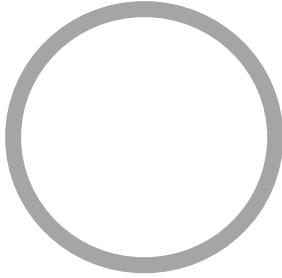
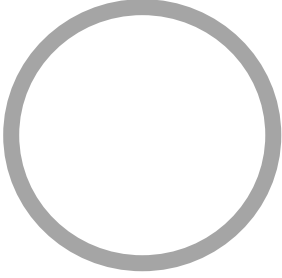
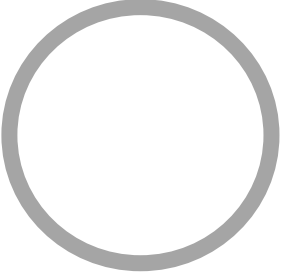
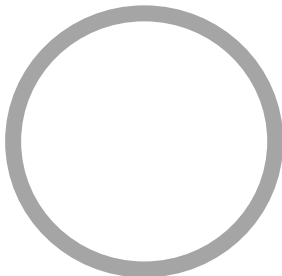
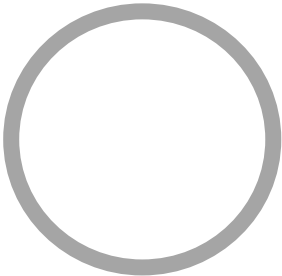
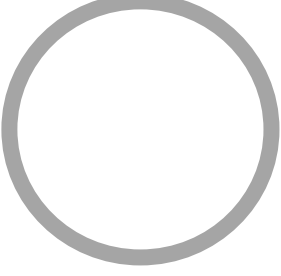
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>（外務省仮訳）

■すすめ方

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|-------------|--|--|
| 1.はじめに | 「これから、日本の教育について書かれたワークシートを配ります。みなさんの意見を書いてみましょう」など、導入の言葉で始める。 | |
| 2.個人作業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 人一枚、ワークシートと資料を配布する。 ・ 資料（SDGs のロゴ一覧表やゴール 4 の解説）を見ながら、○の中に当てはまる目標の番号を記入する。 ・ ワークシートの中央の空欄（E）には、自分の関心のある教育に関する問題を各自記入する。 | 1 つの問題に 1 つの番号に限らないので、複数記入してかまいません。また、ひとつの「正解」があるわけではないので、関係性をよく考えるよう、言い添えてください。 |
| 3.グループワーク 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでワークシートを見せ合い、どの番号を入れたのか、なぜその番号を入れたのか、理由を話しながら共有する。 ・ 中央には何を書いたのか紹介し、それはどの番号と関連するのかを共有する。 | 考えが異なるのは当たり前のことなので、否定せず、それぞれの意見をよく聞くように伝えてください。 |
| 4.グループワーク 2 | <p>以下の問いかけを行い、グループ内で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs のどの目標との関連が多かったか？どの目標との関連が少なかったか？ ・ ほかの人の意見を聞いて、気がついたこと、新しく知ったこと、興味深かったことはなにか？ | 社会問題の中には、SDGs の 17 の目標に含まれていないもあります。ここでは、そのことに気づくのも大切なことです。 |
| 5.全体共有 | <p>グループで話し合ったことを全体発表する。</p> <p>→終了後、「アクティビティ 9 首相・外務大臣に手紙を書こう」へつなげる。</p> | |

SDGs の 17 の目標や目標 4 のターゲット（4.1、4.2 など）の中から「関連する」と思うものを選んで、○の中に番号を書きましょう。

○の中にはいくつ番号を書いてもかまいません

| | | |
|--|--|--|
| <p>A</p> <p>「女の子だから」という理由で大学受験で減点されて不合格になった子がいるんだって。</p>  | <p>B</p> <p>いじめにあって、学校に行きたくない。学校以外で学べる場所がもっとあったらいいな。</p>  | <p>C</p> <p>保育園に通いたくても満員で通えない子がたくさんいるよ。住んでいる町によっても違うみたい。</p>  |
| <p>D</p> <p>障害があるからといって分けるのではなくて、みんなと一緒に勉強したいな。</p>  | <p>E</p> <p>わたしが日本の教育について問題だと思っていることは...</p>  | <p>F</p> <p>小さい頃に外国から日本に来たよ。日本語も大切だけど、自分の言葉（母語）も勉強したいな。</p>  |
| <p>G</p> <p>進学したいけど、学費が払えそうにない。奨学金は返済できるかどうか不安だし…。諦めようかな。</p>  | <p>H</p> <p>生まれつき髪の色が茶色いのに、学校で「黒く染めなさい」って言われた子がいるんだよ。</p>  | <p>I</p> <p>日本の先生たちは仕事がたくさんあって、働き過ぎなんだって。これって、どうなの！？</p>  |

アクティビティ 7 : 本当に必要な「教育援助」とは？

対象：高校生～大人
所要時間：50分
実施の難易度：★★★

■ねらい

1. 援助国と被援助国間で話し合われる援助内容と、援助される側（受益者）のニーズとの違いやギャップに気付く。また、本当に必要とされる援助とは何かを考える。
2. 日本政府の教育援助の内容や傾向を知る。
3. NGO が提言している「日本政府の教育援助に望むこと」を知る。



実施の様子（東海大学）

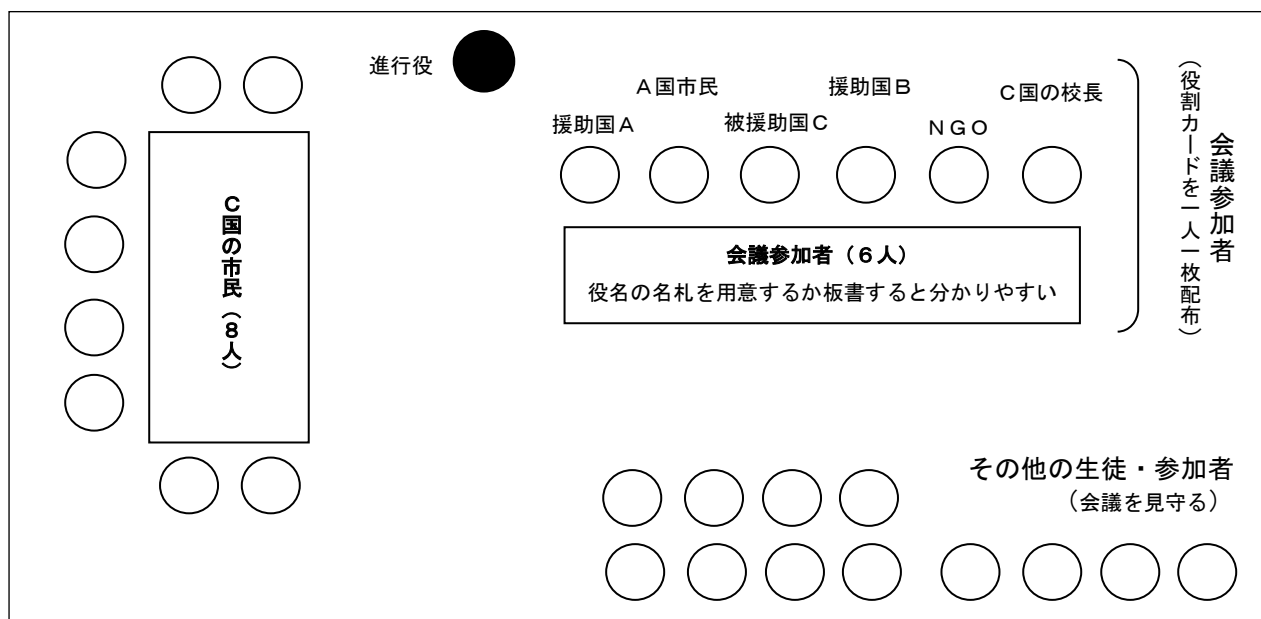
■準備するもの

- ・ ワークシート（36頁／1人1枚）
- ・ 役割カード A（37頁／1セット用意し点線で切り離しておく）
- ・ 役割カード B ①～⑥（38～43頁／1人の役割につき1枚）
- ・ 役割カード B ⑦～⑭（44頁／1セット用意し点線で切り離しておく）
- ・ 援助カード（45頁／1セット用意し点線で切り離しておく／役割カード B とセットにする）
- ※下表参照：NGO と C 国市民の母親および父親の 3 人には援助カードはありません
- ・ 資料：日本政府の教育援助に対する NGO の提言（47・48頁／1人1枚）

役割カード B と援助カードの組み合わせ

| 役割カード B | 援助カード | 役割カード B | 援助カード |
|----------|-------|--------------|-------|
| ① A 国政府 | ①② | ⑧ C 国・母親 | 無し |
| ② A 国市民 | ③④ | ⑨ C 国・小学校教員 | ⑨ |
| ③ C 国政府 | ⑤ | ⑩ C 国・15 歳男子 | ⑩ |
| ④ B 国政府 | ⑥ | ⑪ C 国・13 歳女子 | ⑪ |
| ⑤ NGO | 無し | ⑫ C 国・11 歳男子 | ⑫ |
| ⑥ C 国の校長 | ⑦⑧ | ⑬ C 国・9 歳女子 | ⑬ |
| ⑦ C 国・父親 | 無し | ⑭ C 国・8 歳男子 | ⑭ |

ワーク実施時の部屋レイアウトの案



■すすめ方 ※進行役は会議も含めた全体の進行を担当してください

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|--------------------------|--|---|
| 1.準備 | 部屋の中央（または前方）にテーブルを2つ配置し、イスを6脚・8脚ずつ用意する。 | |
| 2.解説 | 進行役は「これから、経済的に貧しいCという国への教育援助について、関係者会議を行います」と全体に伝える。 | |
| 3.状況設定と全体共有 | 全員にワークシート（36頁）を配布する。進行役は全体に「C国ってこんな国」までを、音読する。 | |
| 4.協力者を募る | 進行役は「この会議への協力者を14名募集します。協力してくれる人は前に出て来てください」と、参加者の中から14名の協力者を募り、部屋の中央（または前方）に集まってもらう。その他の生徒・参加者には、オブザーバーとしてワークシートにメモを取りながら会議を見守るよう伝える。 | |
| 5.役割カードAを配る | 協力者1人につき1枚ずつ、役割カードA（37頁）を裏にして配布する。 | |
| 6.着席する（協力者の14名） | 役割カード①～⑥は「援助する側・A国の政府」「A国の市民」「援助される側・C国の政府の担当者」「援助する側・B国の政府」「NGO」「C国の小学校の校長」の順に座る。「C国の市民」たち（8人）は少し離れたところに座る。 | |
| 7.役割カードBと援助カードのセット配布 | 協力者に、それぞれの役が書かれた役割カードBと援助カードのセットを渡す。それぞれ、カードを黙読する。 | |
| 8.役割の紹介と会議の開始 | 進行役は「ここはC国です。これからC国に対する教育援助についての会議を行います。会議には6人が参加していますので、紹介します（それぞれに立ってもらい、誰がどの役をしているか全員に示す）。そして、こちらに座っているのがC国に暮らす皆さんです（他の席に座っている「C国の市民」の人々を指す）。それでは、C国に対する教育援助についての会議を始めてもらいましょう」と言い、会議を開始する。 | |
| 9.会議の実施（ロールプレイ）&援助カードの提示 | <p>会議参加者の6人は、役割カードの指示に従い、以下の通り順番に発言する。適宜、援助カードを机の上に出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>会議での発言の順番</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 援助国Aの政府の担当者 2. A国の市民（寄付者） 3. 援助される側であるC国の政府の担当者 4. 援助国Bの政府の担当者 5. NGO <p>※C国の校長はここでは発言しない</p> </div> | <p>進行役は、参加者全員にもカードの内容が見えるように、出された援助カードを板書する。</p> <p>（35頁：図参照）</p> |

| | | |
|----------------------|---|---|
| | | |
| 10.質疑応答 | 進行役は NGO が発言した後に 「みなさん、ありがとうございました。では、さっそくこの6人の方々にC国への教育援助について話し合っていきたいと思います。まずは、質問のある方、どなたからでもけっこうですので、どうぞ」と言い、質疑応答を開始する。 | 質問者が率先して出てこない場合は、名指しして質疑応答を進める。 |
| 11.会議終了 | 質疑応答が終わり、話し合いが煮詰まった頃、進行役は「C国の学校の校長先生」に合図して発言を促す。その発言をもって会議を終了する。 | |
| 12.C国の市民の発言&援助カードの提示 | 進行役は「さて、ここにいるC国の人々はどのようにお考えなのか、聞いてみましょう。一人ずつ自己紹介をしてください」と指示する。「C国の市民」役は、一人ずつ役割カードを順不同に読みあげる。適宜、援助カードを机の上に出す。 | 進行役は、参加者全員にもカードの内容が見えるように、出された援助カードを板書する。 (次頁：図参照) |
| 13.ロールプレイの終了と振り返り | 進行役は「みなさん、ありがとうございました。以上で、会議は終了です」と全体に伝える。次いで、以下の問いかけをしながら、全体で振り返りを行う。協力者の14名は、役を離れて、振り返りに参加する。 1. 「C国の市民の役になった皆さんは、どんな気持ちで会議を見ていましたか？」 2. 「会議の中で話し合われた援助内容とその援助を受ける側のニーズは合っていましたか？」 3. 「援助国Aはどこの国の政府を象徴していると思いますか？」 4. 「どうしたら本当に必要とされる教育援助が実現できると思いますか？」 進行役は出された意見を板書し、まとめる。 | |

【以降は時間に余裕があれば実施してください（所要時間：20~30分）】

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|-------------------|---|---------|
| 1.日本政府の教育援助について知る | 参加者に1枚ずつ資料1を配布し、援助国Aが日本政府を象徴していることを紹介する。 | |
| 2.NGOの提言を読む | 参加者に1枚ずつ資料2を配布し、日本のNGOが政府にどのような提案をしているのかを紹介する。(→「アクティビティ9 首相・外務大臣に手紙を書こう」へつなげる) | |

図：板書例 ※あらかじめ「援助カード」を印刷し張り出して良い

| したい援助 | してほしい援助 |
|---|--------------------------------------|
| 高等教育（A国政府） 使わなくなった鉛筆 300本 （A国の市民） | 教員の給与（先生） 女子教育（女の子） 障害児教育（男の子） |

参加者から机の上に出された援助カードは、全員が見えるように進行役が板書をする。
 「したい援助」と「してほしい援助」に分けると、援助する側とされる側のギャップが対比しやすい。



実践者の声（2017年度アンケートより）

- ・ ロールプレイを通して、援助する側とされる側の必要性をしっかりと考え、学ぶことが出来ました。
- ・ ロールプレイでの生徒の真剣に取り組む姿勢に驚かされた。こちらが思っていた以上に、生徒が自分たちにも関わる問題として内容をとらえていたように思う。
- ・ ロールプレイは初めての実施でしたが、双方の気持ちが体感でき、新しい発見があったようです。
- ・ ロールプレイの時、本気で討論する姿が見られた。
- ・ これは、援助のあり方について学ぶ「最強の教材」だ！

✎ C国への「教育援助」についての関係者会議が開かれます

ここはC国です。今日はこれから、C国に対する「教育援助」についての会議が開かれることになりました。

会議には、(1) 援助する側・A国の政府の担当者 (2) A国の市民 (3) 援助する側・B国の政府の担当者 (4) 援助を受ける側であるC国の政府の担当者 (5) C国の小学校の校長先生 (6) 国際NGOのスタッフ、の6人が参加しています。



✎ C国ってこんな国

C国は、いわゆる「開発途上国」と言われる国です。石油や天然ガス、鉱物といった資源はなく、工業的な発展はしていません。約30年前に独立しましたが、国の中では紛争が続いています。

国民の8割は農業をして暮らしていますが、土地も荒れていて乾季になると農作物が枯れてしまうこともあり、豊かな生活とは言えません。識字率は60%と低く、教育に関する問題がたくさんあります。

✎ 会議で話し合われるポイントをメモしましょう

| 会議に参加している人 | 主張やポイント |
|------------------|---------|
| (1) 援助する側・A国の政府 | |
| (2) A国の市民（寄付者） | |
| (3) 援助する側・B国の政府 | |
| (4) 援助される側・C国の政府 | |
| (5) C国の小学校の校長先生 | |
| (6) 国際NGOのスタッフ | |
| そのほか気付いたことなど | |

| | |
|--|---|
| <p>(役割カード①)</p> <p>援助国 A の政府の担当者</p> | <p>(役割カード②)</p> <p>A 国の市民 (寄付者)</p> |
| <p>(役割カード③)</p> <p>援助される側・C 国の 政府の担当者</p> | <p>(役割カード④)</p> <p>援助国 B の政府の担当者</p> |
| <p>(役割カード⑤)</p> <p>国際 NGO のスタッフ</p> | <p>(役割カード⑥)</p> <p>C 国の小学校の校長先生</p> |
| <p>(役割カード⑦)</p> <p>C 国の市民 小学校の先生</p> | <p>(役割カード⑧)</p> <p>C 国の市民 3 人の子どもを持つ母親</p> |
| <p>(役割カード⑨)</p> <p>C 国の市民 2 人の娘を持つ父親</p> | <p>(役割カード⑩)</p> <p>C 国の市民 15 歳の男の子</p> |
| <p>(役割カード⑪)</p> <p>C 国の市民 13 歳の女の子</p> | <p>(役割カード⑫)</p> <p>C 国の市民 11 歳の男の子</p> |
| <p>(役割カード⑬)</p> <p>C 国の市民 9 歳の女の子</p> | <p>(役割カード⑭)</p> <p>C 国の市民 8 歳の男の子</p> |

役割カード① 援助する側・A 国の政府の担当者

[自己紹介]

- あなたが最初に発言してください。
- 文中の指示にしたがって、援助カード①を提示してください。
- 太字の部分はあなたの主張したい部分なので、強く発言してください。

ごほん。みなさん、はじめまして。A 国の政府を代表して来ました〇〇（あなたの名前）です。

我が国は、戦後の工業発展を遂げて急成長し、先進国の仲間入りを果たした国です。発展した私たち A 国は ODA というお金を使って開発途上国に多大な支援をしてきました。今年からは C 国へも教育分野の援助を行うことになりました。**内容としては、高等教育*を特に重視した援助を行いたい**と計画しておりまして、そのための予算を用意しているのです。（→ 援助カード①「高等教育」を机の上に提示してください）

具体的な援助内容に関しては、後で質問があればお答えします。私たちの援助でより多くの若者が我が国の大学で学べるようになるでしょう！

- 後に質問する時間があるので、以下の質問例を参考に質問してください。

[質問例] ほかの質問をしてもかまいません

🗨 B 国政府へ：これまで C 国へは、どのような教育援助をしてきたのですか？

[A 国の情報]

質問に回答する時などに参照してください。答えられない時は「調べておきます」と回答してください。

文中の指示にしたがって、援助カード②を提示してください。

- ✓ A 国の市民の ODA に対する意識や関心は低い。
- ✓ これまで、低所得国ではなく、主に中所得国に高等教育分野で援助をしてきた。
- ✓ 昨年はアフリカの基礎教育に 25 億円、東アジア・太平洋の高等教育に 400 億円の教育援助を行った。
- ✓ C 国への具体的な援助内容：C 国から留学生を毎年 100 人大学に受け入れる。奨学金と渡航費、生活費などの学生が留学に必要な費用を賄う。

（→ 援助カード②「留学生 100 人受け入れ」を机の上に提示してください）

*高等教育とは、大学・大学院、海外からの留学生への奨学金などのことをいいます。

[援助カード（したい援助）]

援助カード①
高等教育

援助カード②
留学生 100 人受入

役割カード② A 国の市民（寄付者）

【自己紹介】

- 2 番目に発言してください。A 国政府の担当者の次です。
- 文中の指示にしたがって、援助カード③と④を提示してください。
- 太字の部分はあなたの主張したい部分なので、強く発言してください。

はじめまして。私は〇〇（あなたの名前）と申します。A 国から来ました。

今日は C 国の政府の方から子どもたちの様子を伺えるということで、とっても楽しみにしてきました。

私の趣味は旅行です。毎年、長い休みになると海外旅行に行きます。一番最近行った国は C 国です。いつか行ってみたいとずっと憧れていましたが、ようやく訪れることができました。そこで出会った子どもたちが忘れられません。きらきらした瞳で元気いっぱい走り回っていました。話を聞くと学校には行っていませんと言っていました。私はそんな**かわいそうな子どもたちに学校で勉強してほしい**と思い、帰国してから何かできることがないか考えました。そこで、友人や親戚にお願いして**不要な文房具を集めて寄付しよう**と思いつきました。使わなくなった鉛筆を 300 本集めました。子どもたちのためにどうぞ、使ってください！

（➔ 援助カード③「使わなくなった鉛筆 300 本の寄付」を机の上に提示してください）

必要があれば、C 国の子どもたちへの**ノートや文房具のための寄付を募る**こともできます。

（➔ 援助カード④「ノートや文房具の寄付」を机の上に提示してください）

かわいそうな子どもたちのためだったら、何だってできますよ！

- 後に質問する時間があるので、質問例を参考にしてください。

【質問例】ほかの質問をしてもかまいません

☞ C 国政府へ：特に困っていることは何ですか？

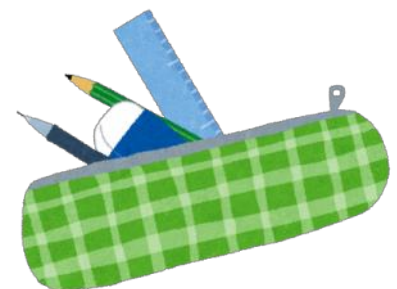
【援助カード（したい援助）】

援助カード③

鉛筆 300 本

援助カード④

ノートや文房具



役割カード③ 援助される側・C国の政府の担当者

【自己紹介】

- 3番目に発言してください。A国の市民（寄付者）の次です。
- 文中の指示にしたがって、援助カード⑤を提示してください。
- 太字の部分はあなたの主張したい部分なので、強く発言してください。

みなさん、今日はわざわざ遠くから、こんな貧しいC国へようこそいらっしゃいました。C国の〇〇（あなたの名前）です。A国市民の〇〇さん（前出）、鉛筆のご寄付を、ありがとうございます。せっかくご寄付いただいたのに申し訳ないのですが、実はC国でも鉛筆や文房具は手に入るのですよ…。

私の国、C国は自然がとても美しい国です。しかし、資源が乏しく、**大変に貧しい国**でもあります。学校に行けない子どもたちが大勢います。この国には**教育分野にあてられる予算がない**のです。

（➔ 援助カード⑤「教育のための予算」を机の上に提示してください）

しかし、数年前から先進国の皆さんの援助によって、たくさん子どもたちが小学校に行けるようになりました。ありがとうございます。

学校で勉強すれば、子どもたちが夢を叶えることができる。私の国も**A国やB国の様に発展し、豊かな暮らしが手に入るはず**、そう信じていますが、**教育予算が少なく、十分な数の教員を雇うことができません**。

私たちに引き続き援助をしていただけるということで、心から感謝しています。

どうか、これからも力を貸してください！**皆さんの援助を本当に頼りにしています**。

- 後に質問する時間があるので、質問例を参考にしてください。

【質問例】ほかの質問をしてもかまいません

👉 A国政府へ：高等教育を重視した教育援助とは、具体的にはどんな援助をしてくれるのですか？

【C国の情報】

質問に回答する時などに参照してください。答えられない時は「調べておきます」と回答してください。

- ✓ 国の教育分野の予算は全体の10%（世界平均は15%。国家予算の少なくとも20%を教育に配分すべきと言われている）。女子の3分の2が一度も学校へ通ったことがない。また、トイレを備えた学校は4校に1校で、そのうち女子用は3校に1校しかない。
- ✓ 都市部の最富裕層の男子はほとんどが小学校に入学し、小学校修了率は90%、中学校修了率は70%に達した。しかし、農村部の最貧困層の女子で小学校に入学したのは50%と低く、小学校修了率は25%、中学校修了率は10%に過ぎず、都市部と農村部で格差が拡大してしまった。

【援助カード（してほしい援助）】

援助カード⑤
教育のための予算

役割カード④ 援助する側・B 国の政府の担当者

[自己紹介]

- 4 番目に発言してください。C 国の政府の担当者の次です。
- 文中の指示にしたがって、援助カード⑥を提示してください。
- 太字の部分はあなたの主張したい部分なので、強く発言してください。

私は B 国の政府を代表して来ました〇〇（あなたの名前）と言います。どうぞよろしく。

私の国は以前から C 国に援助してきました。それにより、C 国の子どもたちの**小学校の入学率は 10 年間で拡大しましたね**。本当に良かったです！これまで基礎教育*への援助額は少しずつですが上げてきました。

これからも、**C 国へは基礎教育分野への援助**をしていく予定です。

（→ 援助カード⑥「基礎教育」を机の上に提示してください）

今日は、C 国の方に、**どんな援助が必要なのかを聞きに来ました**ので、お話を聞かせてください。

- 後に質問する時間があるので、質問例を参考にしてください。

[質問例] ほかの質問をしてもかまいません

☞ A 国政府へ：昨年ほどの地域で、どのくらいの教育援助を行ったんですか？

[C 国の情報]

質問に回答する時などに参照してください。答えられない時は「調べておきます」と回答してください。

- ✓ C 国への教育分野の援助では基礎教育を中心に援助してきた。
 - ✓ 基礎教育分野への援助額は A 国の 3 倍多く、留学生への奨学金などの高等教育は A 国の半分ほどである。
- *基礎教育とは、幼稚園、小学校、成人のための識字教育などのことをいいます。

[援助カード（したい援助）]

援助カード⑥
基礎教育



役割カード⑤ **国際 NGO のスタッフ****【自己紹介】**

- 5 番目に発言してください。B 国の政府の担当者の次です。
- 太字の部分はあなたの主張したい部分なので、強く発言してください。

はじめまして、こんにちは。私は非政府組織である教育 NGO で働いている〇〇（あなたの名前）です。

皆さん、「**持続可能な開発目標**」、通称**エス・ディ・ジーズ**という目標が 2015 年 9 月に国連で採択されたのを知っていますか？17 ある目標の 4 つ目は「質の高い教育」を目指すもので、**2030 年までにすべての子どもたちが幼児教育、小学校、中学校、高校まで通えるようにしよう**と世界中のリーダーたちが合意したものです。わたしたち NGO は、この目標を達成するために、各国政府に政策提言をしたり、啓発活動をしたりしています。

今日の会議では C 国への教育援助について話し合うということですが、まず NGO の立場から言わせてもらいますが、この目標を達成するためには世界の国々の協力が不可欠です。ですから、**C 国は教育予算を増やすべきです**。また、援助する側である A 国政府と B 国政府にも、後で色々と質問をさせてもらおうと思います。よろしくお願ひします。

- 後に質問する時間があるので、質問例を参考にしてください。
- ほかの人が質問しない時は、積極的に質問してください。

【質問例】ほかの質問をしてもかまいません

- ☞ C 国政府へ：C 国の子どもの入学率は確かに上がりましたが、「すべての」の子どもたちなのですか？女の子や農村部などの全国の子どもの就学状況について把握していますか？
- ☞ A 国政府へ：高等教育への援助とおっしゃいますが、A 国に C 国の留学生を受け入れることで、援助はほとんど A 国内で使われると思います。それについてどう考えていますか？

【NGO が持っている情報】

質問に回答するときなど必要に応じて参照してください。

- ✓ C 国の国民一人が A 国に留学する費用は、230 人の生徒が C 国内で中学校・高校・専門学校といった中等教育を受ける費用に匹敵する。
- ✓ 小学校に行っていない子どもの数は、アフリカ：4,000 万人、アジア：1,900 万人である。
- ✓ 小学校就学年齢にある約 7 億人の子どものうち、3 分の 1 は読解と算数の基礎的なスキルがない。その半数は小学校に通っているのにも関わらず、最低限の学習基準にも到達していない。

役割カード⑥ 援助される側・C国の小学校の校長先生

[自己紹介]

- 質疑応答が終わり、話し合いが煮詰まったところで、最後に発言してください。
- 発言するタイミングは進行役が合図します。
- 文中の指示にしたがって、**援助カード⑦**と**⑧**を提示してください。
- 太字の部分はあなたの主張したい部分なので、強く発言してください。

このような場に呼んでいただき、ありがとうございます。大変光栄に思います。私はC国のとある町の小学校で校長をしております、〇〇（あなたの名前）と申します。全国の教員を代表して来ました。

私の小学校には数年前は毎年入学する子どもの数は60人でしたが、海外からの教育援助で入学率は倍以上になり、今では130人の子どもが毎年入学してきます。それは素晴らしいことです。しかし、**生徒の数が増えたことで教員や教材が足りず、教室はいつもぎゅうぎゅうです。**

（→ 援助カード⑦「教員・教材の支援」を机の上に提示する）

また、教員の給料は以前と変わらず低く、毎月の給料だけでは家族を養えない状態です。私自身も週に2日は工場で働かなくてははいけません。教員は皆、毎日学校で教壇に立ちたいと思っているはずですが、**今の給料では到底無理**なのです。（→援助カード⑧「教員の給料の向上」を机の上に提示する）

さて、そろそろ、授業が始まる時間です。私は学校へ行って始業のベルを鳴らさなくてははいけませんので。皆さんの貴重なお話が聞けてよかったです。子どもたちの現状を知ってもらい、**誰が、どんな援助が必要なのか、すべての人が教育を受けられるようにはどうしたらいいのか**、よく話し合って教育援助をしていただけることを心から願っています。今日は本当にありがとうございました。

- これで会議は終了です。

[援助カード（してほしい援助）]

援助カード⑦
教員・教材

援助カード⑧
教員給与の向上



| | |
|--|--|
| <p>役割カード⑦ C 国の市民 父親</p> | <p>役割カード⑧ C 国の市民 母親</p> |
| <p>子どもには教育を受けさせる必要はないと思っているよ、だって女の子2人だしね。どうせ何年かしたら嫁に出すので。息子が生まれたら学校に通わせるつもりなんですけどね。</p> | <p>私自身は学校に行っていません。3人の子どもたちは、読み書きができるように学校に通わせたいと思っていますが、家畜の世話や家事、きょうだいの子守りを手伝ってもらわなくてはいけないので、子どもたち全員を学校に通わせる余裕はありません。</p> |
| <p>役割カード⑨ C 国の市民 教師</p> | <p>役割カード⑩ C 国の市民 15 歳男子</p> |
| <p>私は〇〇校長先生（前出）の学校で働いています。実は、私は、教員訓練を受けたことがありません。それどころか高校卒業資格もありません。いつも、どうやって生徒に教えていいのか分からず悩んでいます。 C 国の政府にはもっと教育分野へ予算を割いてもらい、教員養成や給料に充ててもらいたいです。 (→援助カード⑨を机の上に提示してください)</p> | <p>僕がもっと小さかった頃、村に小学校ができました。もちろん毎日通いました。友だちもできたし、何より楽しかった。でも、勉強は得意じゃなくて、さっぱり先生の言っていたことが分からなくて、結局、簡単な文章を理解することすらできなかった。 「先生の教え方がもっとよくなれば…」って外国の人たちが言ってた。もう 15 歳だけど、中学校へは通ってません。 (→援助カード⑩を机の上に提示してください)</p> |
| <p>役割カード⑪ C 国の市民 13 歳女子</p> | <p>役割カード⑫ C 国の市民 11 歳男子</p> |
| <p>家は貧乏で、おばあちゃんも病気で私が働いて家計を助けないといけないの。通っていた学校を中途退学して、今は工場で毎日洋服をミシンで縫ってます。働いているときは私は 17 歳って嘘をついてます。だって、「児童労働」になっちゃうから。私の作った洋服はどこの誰が着るんだろう？ (→援助カード⑪を机の上に提示してください)</p> | <p>学校は楽しい。字が読めるようになったし、計算だってできる。将来の夢はお医者さんになること。けど今は、紛争で軍が校舎をつかっている、学校へ行けなくなってしまったんだ。友だちから軍に入らないかって誘われてるんだけど、どうしよう…。 (→援助カード⑫を机の上に提示してください)</p> |
| <p>役割カード⑬ C 国の市民 9 歳女子</p> | <p>役割カード⑭ C 国の市民 8 歳男子</p> |
| <p>私の村は学校から遠くて、毎日歩いて 2 時間かかるんです。学校には女子用トイレがなくて、生徒の数が多くて教室はいつもぎゅうぎゅう。座るところも足りないし、黒板も小さくて、よく見えない。せつかく学校に着いても、先生が来ない日もあるから悲しい。先生が増えたらもっと質問できるし、勉強できるのにな。 (→援助カード⑬を机の上に提示してください)</p> | <p>僕は歩くのが生まれつき苦手。椅子に車輪が付いたら学校へもいけるのになあ。学校には一度も行ったことがないけど、僕は頭が良いからクラスで一番になれるはずだよ！でも、近所の小学校には入学を断られてしまったんだ。友だちはみんな学校に行っているのに…。 (→援助カード⑭を机の上に提示してください)</p> |

| | |
|--|---|
| <p>(援助する側・A国の政府／援助カード①)</p> <p style="text-align: center;">高等教育</p> | <p>(援助する側・A国の政府／援助カード②)</p> <p style="text-align: center;">留学生 100 人受け入れ</p> |
| <p>(A国の市民／援助カード③)</p> <p style="text-align: center;">使わなくなった鉛筆 300 本の寄付</p> | <p>(A国の市民／援助カード④)</p> <p style="text-align: center;">ノートや文房具の寄付</p> |
| <p>(援助を受ける側・C国の政府／援助カード⑤)</p> <p style="text-align: center;">教育のための予算</p> | <p>(援助する側・B国の政府／援助カード⑥)</p> <p style="text-align: center;">基礎教育</p> |
| <p>(C国の学校長／援助カード⑦)</p> <p style="text-align: center;">教員・教材の支援</p> | <p>(C国の学校長／援助カード⑧)</p> <p style="text-align: center;">教員の給料の向上</p> |
| <p>(C国の市民・教師／援助カード⑨)</p> <p style="text-align: center;">教員の給料の向上 教員のための研修</p> | <p>(C国の市民・15歳の男の子／援助カード⑩)</p> <p style="text-align: center;">教えるのが上手な教員</p> |
| <p>(C国の市民・13歳の女の子／援助カード⑪)</p> <p style="text-align: center;">児童労働の廃止 女子の教育の機会</p> | <p>(C国の市民・11歳の男の子／援助カード⑫)</p> <p style="text-align: center;">軍による教育施設利用の禁止</p> |
| <p>(C国の市民・9歳の女の子／援助カード⑬)</p> <p style="text-align: center;">十分な数の教員</p> | <p>(C国の市民・8歳の男の子／援助カード⑭)</p> <p style="text-align: center;">障害児の教育の機会</p> |

■解説：「教育援助」の傾向と課題

A 国の政府 - 日本政府の特徴を反映

- ・ 日本政府の「教育援助」をもとに A 国の状況設定をしています。
 - ・ 詳しくは、資料（47・48 頁）をご参照ください。
 - ・ 他の援助国と比べて、日本政府の「教育援助」には、以下の 2 つの大きな特徴があります。
 - ① アフリカなどの低所得国よりも、アジアなどの中所得国への配分が多い。
 - ② 基礎教育・中等教育分野*への配分が少なく高等教育**への配分が大きい。中でも、日本に留学する奨学金への配分が大きく、途上国内で使われる援助が少ない。
- *基礎教育・中等教育：幼児教育、初等教育（小学校）、中等教育（中学校・高校）、成人のための識字教室など
- **高等教育：大学・大学院や留学生の奨学金など

B 国の政府 - 援助国全体の特徴を反映

- ・ 援助国全体の「教育援助」の傾向をもとに B 国の状況設定をしています。日本政府よりも、低所得国への配分が大きく、また、基礎教育分野への配分が大きい。
- ・ 詳しくは、資料（47・48 頁）をご参照ください。

C 国の政府 - 教育の質の改善、特に教員養成と給与保障が必要とされている

- ・ 特に、低所得国の状況をもとに C 国の状況設定をしています。
- ・ 国家予算の少なくとも 20% を教育に配分すべきであるといわれていますが、2011 年の世界平均は 1999 年とほとんど変わらず、15% となっています。
- ・ 過去 10 年間で、教育へのアクセスや入学率は大幅に改善しましたが、教育の「質」の向上は進んでいません。依然として、訓練を受けた教員が不足していること、教室がせまいこと、教材が不足している、といった課題があります。
- ・ 多くの低所得国では、教員不足のために低学年や貧困地域で学級規模が大きくなり、教育の質が悪化しています。また、教員不足を抱える国では、教員給与のための予算を増やす必要があります。しかし、2008 年から 2011 年の期間に、教員養成と現職教員の研修に対する援助は「教育援助」全体の 2% に留まっています。

C 国の市民

- ・ 現在、世界に小学校に通えない子どもは 6,400 万人、文字の読み書きができない大人は 7 億 5,000 万人もいます。こうした事実の背景には、紛争や貧困などはもちろん、教育への無理解や女の子や障害者など、社会的弱者への差別といった、さまざまな問題があります。
- ・ このロールプレイでは、最も支援を必要としている C 国の市民たちは、会議に参加することはできません。C 国の政府や学校長が述べることは、必ずしも市民全体のニーズを反映しているとは限りません。特に、弱い立場に置かれた人々の意見が反映されない可能性が高いのです。

出典：EFA グローバルモニタリングレポート 2013/4 (<http://jnne.org/img/GMR2013japanese%20version.pdf>)

※このアクティビティは『「援助」する前に考えよう - 参加型学習と PLA がわかる本』（開発教育協会）を参考にしています。

資料: 日本政府の教育援助に対する NGO の提言

©

途上国で教育支援を行う教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) では
日本政府に以下の 4 つの提言をしています。

提言 1: 基礎教育援助の割合を増やしてください。

提言 2: 紛争下や紛争の影響を受けた国、低所得国への配分を増やしてください。

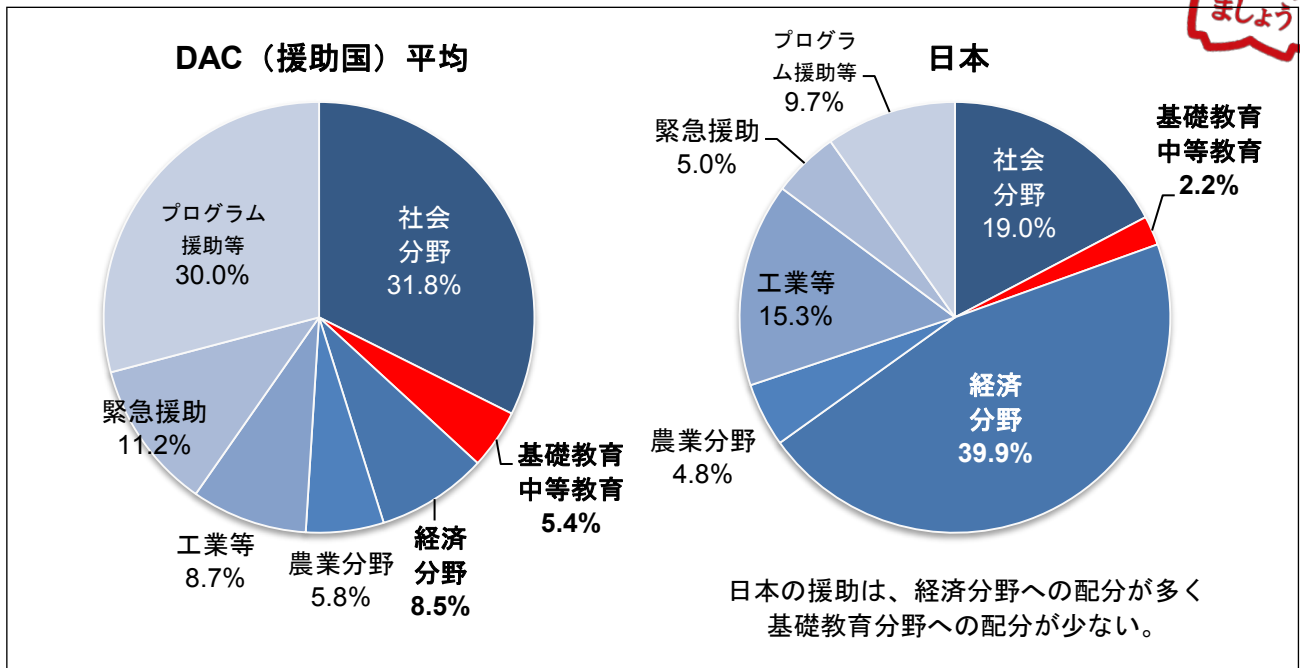
提言 3: 技術協力と財政支援の両方を途上国のニーズに応じて行いましょう。

提言 4: 教育のためのグローバル・パートナーシップ (※GPE 基金) にもっと拠出を。

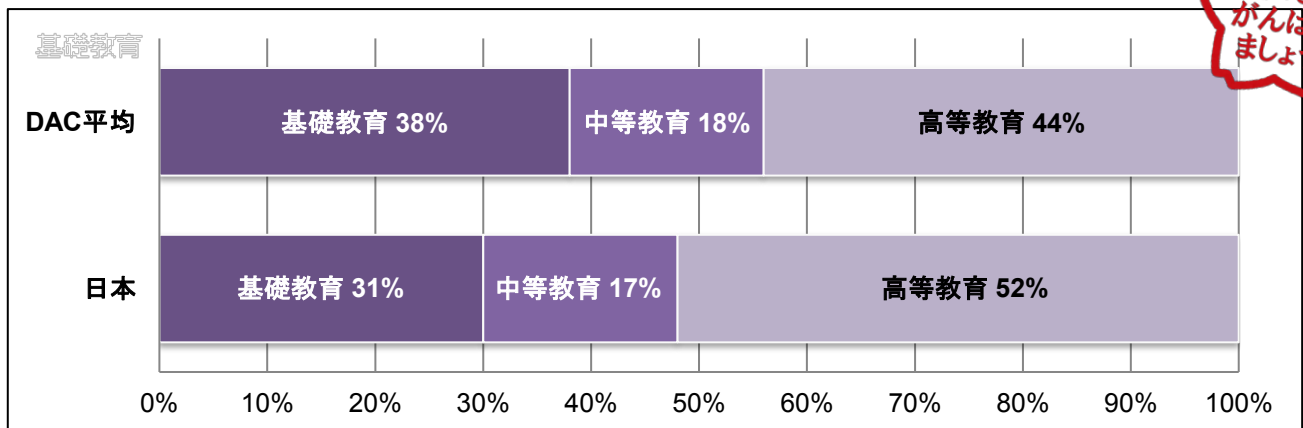
※GPE 基金: 基礎教育普及のために 2002 年に設立された国際的な援助の枠組みのこと。

[提言 1] 基礎教育援助の割合を増やしてください

政府開発援助 (ODA) は何に使われているか



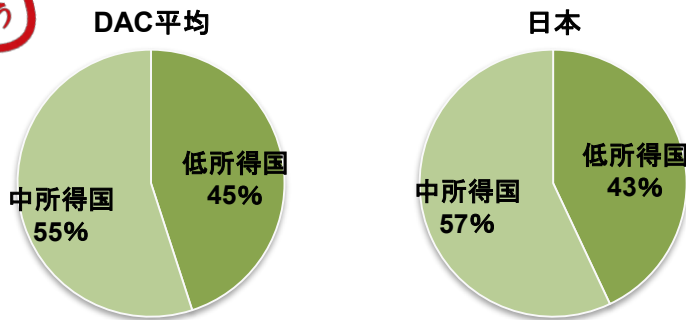
教育分野の援助は何に使われているか



日本の援助は、高等教育 (中でも留学生への奨学金) への配分が多く、基礎教育への配分が少ない。

【提言 2】 紛争下や紛争の影響を受けた国、低所得国への配分を増やしてください ㊟

教育援助はどこで使われているか

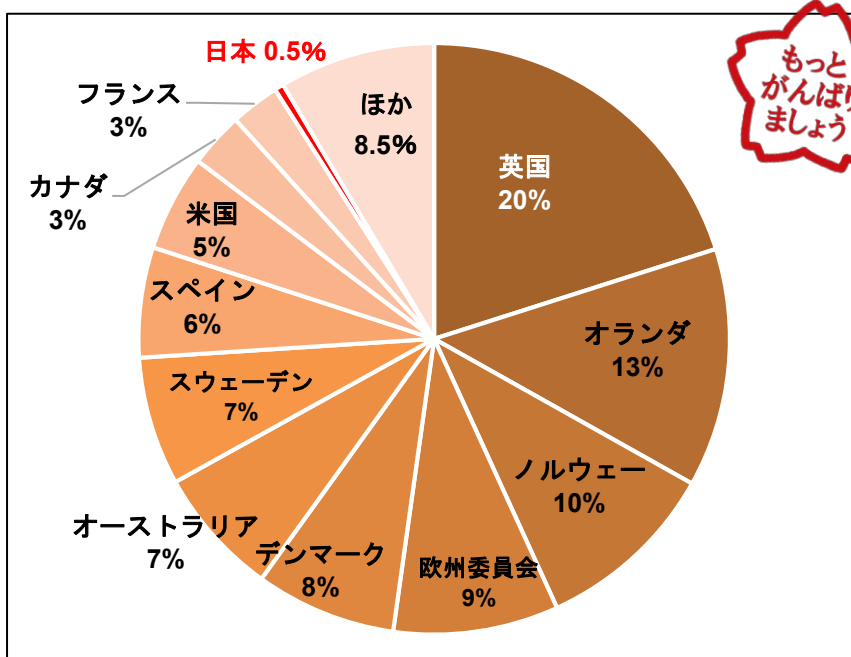


日本の援助は、以前まで低所得国（サハラ以南アフリカなど）よりも中低所得国（アジアなど）への配分が多い傾向にありましたが、低所得向けの配分も増えてきました。DAC平均とほぼ近い比率となっています。今後も、この傾向が継続し、より改善していくことが大切です。

- ・ 「分類不能」は除外してあります。
 - ・ 低所得国は、2013年の1人あたりの国民所得（GNI）が1,045ドル以下の国、中所得国は、1,046ドルから12,745ドル以下の国を指します。
- 出典：OECD CRS system（2019年2月閲覧）

【提言 4】 教育のための GPE 基金へもっと拠出しましょう

GPE 基金への拠出実績（2003年～2018年12月までの累計額）



教育のためのグローバル・パートナーシップ基金（GPE 基金）は、開発途上国、先進国、国際機関、市民社会、民間企業などが協力し、持続可能な開発目標の目標 4「質の高い教育をみんなに」の実現を目指す国際的なパートナーシップです。現在 65 か国の低所得国が対象となっており、日本も含む 27 か国が資金を拠出しています。

なお、GPE 以外の多国間機関（世界銀行、ユニセフ等）による教育援助事業に対しても、日本政府は、拠出しています。

※出典：https://www.globalpartnership.org/funding（2019年2月閲覧）

2018 年末までの累計で、GPE 基金への拠出額総額に占める日本の拠出額割合はわずか 0.47%です。2018 年 2 月にセネガルで GPE 拠出会合が開催されました。年間あたり、欧州委員会は 440 億円、英国は 134 億円、フランスは 95 億円、カナダは 54 億円と従来の 2 倍の拠出増額を表明しましたが、日本は年間わずか約 3 億円の拠出金表明でした。人口 476 万人のアイルランドでさえ 12 億円を拠出します。国際社会からは日本に対して世界第 3 位の経済規模に見合った貢献が求められています。

またこの会合では、多くの途上国政府が「教育 2030 アジェンダ」※で推奨されている「政府予算の 20%を教育予算に充てる」ことを表明しました。多くの途上国が教育予算を増やし、いくつかの先進国も教育援助額を増やしているのです。

※2015年のユネスコ総会で採択されたSDG4を達成するための行動計画

アクティビティ 8 : 日本のODAの推移を読み解こう

対象 : 高校生~大人

所要時間 : 30 分

実施の難易度 : ★★★

■ねらい

1. 日本政府の教育援助の内容や傾向を知る。
2. 他国との比較、また、経年変化から、日本政府の教育援助の推移を読み解く。

■本アクティビティ作成の背景

2017 年度大学入試センター試験「現代社会」の問題（第 5 問）※に、開発途上国への教育援助に関する問題が出題されました。出題問題（問 4）の内容を参考に、最新データに基づいた類似問題を作成しました。大学入試センター試験に相当する内容のため、対象は高校生以上です。社会科の時間でもぜひ活用してください。

※大学入試センターホームページより実際の問題が参照できます

<http://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00009406.pdf&n=現代社会.pdf>

■準備するもの

- ・ ワークシート（51・52 頁）
- ・ 資料：日本政府の教育援助に対する NGO の提言（47・48 頁／必要に応じてご利用ください）

■すすめ方

| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|-----------|---|-----------------|
| 1.はじめに | 「これから、世界と日本の教育援助に関する資料を見ます。問題に答えながら、今の援助について考えてみましょう」など導入の言葉で始める。 | |
| 2.個人作業 | 個人で問題を解いてみる。 | |
| 3.グループワーク | 自分が迷ったところなど、グループで答えを相談する。 また、問 3 にある日本政府の教育援助の特徴や、気づいたこと・感じたことを話し合う。 | |
| 4.内容確認 | 答えを確認し、解説をする。 | 問 1 : ③ 問 2 : ④ |
| 5.全体共有 | 話し合ったことを何グループかに発表してもらおう。 →終了後、「アクティビティ 9 首相・外務大臣に手紙を書こう」へつなげる。 | |

■用語

- ・ 無償資金協力：返済の必要がない資金提供による国際協力事業で、開発途上国・地域が経済社会開発のために必要とする教育、保健医療、運輸、環境などの分野の資機材、設備およびサービスを購入するために必要な資金を贈与するものです。所得水準の低い諸国を主な対象としています。
- ・ 政府貸付等：金利付で返済の必要がある資金貸付による国際協力事業で、開発途上国・地域が経済や社会の開発と安定をもたらす基盤を整備するために必要とする資金を円貨で貸し付けるものです。低金利かつ返済期間の長い緩やかな貸付条件で開発途上国・地域に必要な資金を貸し付ける「円借款」と開発途上国・地域での事業実施を担う民間セクターの法人等に対して融資・出資を行う「海外投融資」があります。
- ・ 技術協力：開発途上国・地域の経済社会開発の担い手となる人材の育成を支援する国際協力で、日本から専門家を派遣して現地の人々が技術を習得できるよう指導する場合や、開発途上国・地域からの留学生を受け入れて専門知識や技術の研修などを行う場合など様々な形態があります。

(参考) 外務省ホームページ：2015年版開発協力参考資料集 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000156852.pdf>

■回答と解説

問1回答：③

日本の教育分野における援助合計額およびODA全体に占める割合は、2011年から2015年の間に大幅に減少し、2011年の半分以下になっている。

- ①無償資金協力の割合が一番小さいのは2011年(24.83%)であるため、誤り。
- ②教育分野への援助実績の割合は7.4%から2.7%に4.7ポイント減少しているため、誤り。
- ④援助実績合計額が最も多かったのは2011年であるため、誤り。

問2の回答：④

フランス、イギリス、ドイツ、アメリカが2005年から2015年にかけて、教育分野および初等教育への援助額を大幅増加、または微減しているのに比較して、日本の当該分野への援助額は減少している。

- ①初等教育への援助額が最も少ない国はアメリカではなくフランスであるため、誤り。
- ②初等教育への援助額の割合が最も大きい国は日本(9.3%)ではなくアメリカ(72.3%)であるため、誤り。
- ③初等教育への援助額の増加額が最も大きい国はイギリス(+39百万米ドル)ではなくアメリカ(+319百万米ドル)であるため、誤り。

日本のODAの推移を読み解こう

問1. 以下の表は、日本による教育分野における援助実績の推移です。表から読み取れることとして、最も適当なものを①～④のうちで1つ選んでください。

表1：教育分野における援助実績と割合の推移

(約束額ベース、単位：百万ドル、%)

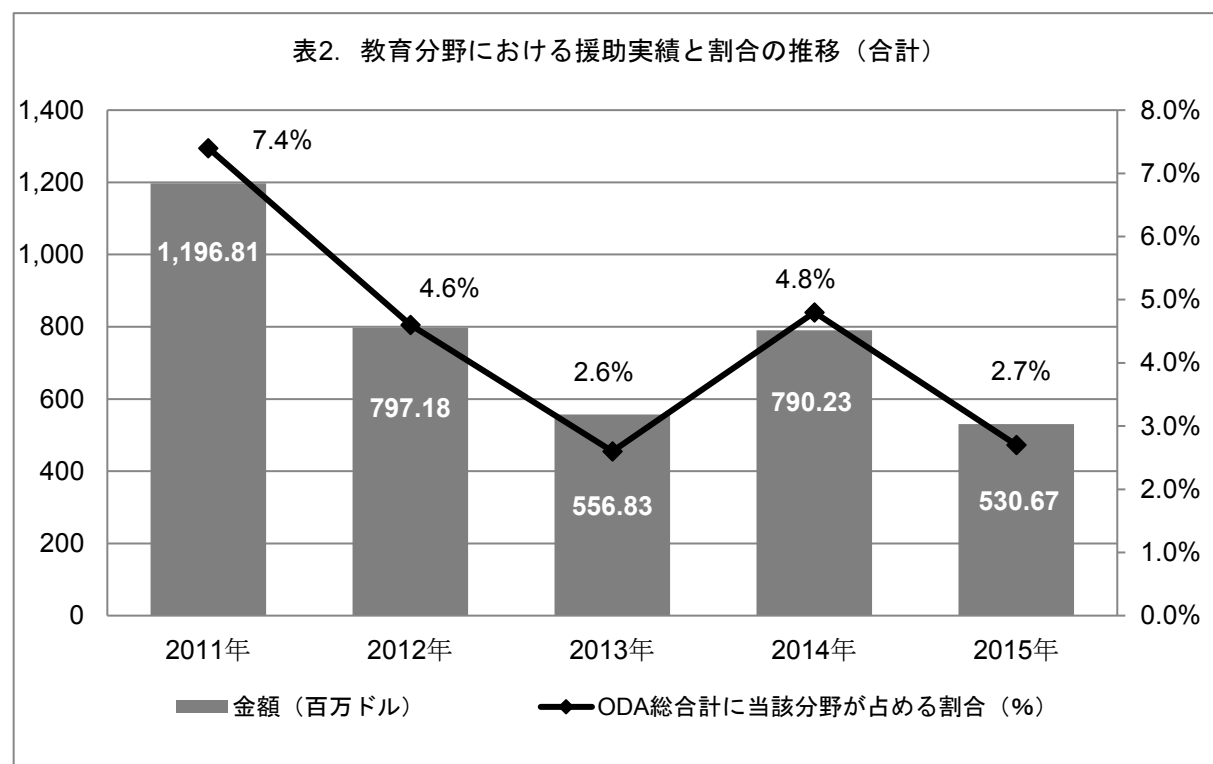
| 年 | 無償資金協力 | 政府貸付等 | 技術協力 | 合計(表2) |
|------|-----------------|-----------------|------------------|-------------------|
| 2011 | 297.13 (7.8%) | 86.42 (1.0%) | 813.26 (21.1%) | 1,196.81 [7.4%] |
| 2012 | 328.84 (9.9%) | — (-) | 468.34 (12.7%) | 797.18 [4.6%] |
| 2013 | 157.73 (2.8%) | 91.19 (0.7%) | 307.92 (10.8%) | 556.83 [2.6%] |
| 2014 | 199.19 (7.0%) | 289.57 (2.7%) | 301.48 (11.4%) | 790.23 [4.8%] |
| 2015 | 149.02 (5.1%) | 86.41 (0.6%) | 295.23 (12.4%) | 530.67 [2.7%] |

※1. 本データは DAC_CRS 統計に基づく。

※2. 各援助形態欄の () 内は、援助形態別に集計した ODA 総合計に当該分野が占める割合 (%)。

※3. 合計欄の [] 内は、ODA 総合計に当該分野が占める割合 (%)。

2015 年版政府開発援助 (ODA) 参考資料集より作成。



- ① 教育分野における援助実績合計における無償資金協力の割合が一番大きいのは2012年で、一番小さいのは2013年である。
- ② 2011年から2015年にかけて、ODA総合計における教育分野への援助実績の割合は高くなっている。
- ③ 教育分野における援助実績合計における技術協力の割合が一番小さいのは2014年で、一番大きいのは2011年である。
- ④ 政府貸付等の金額が最も多かったのは2014年で、援助実績合計額が最も多かったのは2015年である。

問 2. 以下の表は、経済協力開発機構（OECD）加盟国 5 か国による、途上国への教育分野における政府開発援助（ODA）の総額と、そのうちの初等教育への援助額を示したものです。表から読み取れるものとして、最も適当なものを①～④のうちで 1 つ選んでください。

表 3 教育分野における ODA の額

(百万米ドル)

| | 教育分野への援助総額 | | 初等教育への援助額 | |
|------|------------|--------|-----------|--------|
| | 2005 年 | 2015 年 | 2005 年 | 2015 年 |
| フランス | 1,165 | 1,110 | 45 | 32 |
| ドイツ | 1,252 | 1,856 | 50 | 163 |
| 日本 | 701 | 429 | 70 | 40 |
| イギリス | 289 | 1,002 | 216 | 255 |
| アメリカ | 591 | 968 | 381 | 700 |

※ 1 2005 年の金額は、2015 年米ドルを基準にした実質値で示している。データはいずれも支出総額である。

※ 2 初等教育の援助対象には、子どものためのすべての初等及び最初の系統的教育で公式及び公式外に行われるものや、それらのための教材が含まれる。なお、就学前教育への援助は含まれない。

OECD, OECD.Stat.DAC Creditor Reporting System(CRS)(PECD Web ページ)より作成。

- ① 2005 年において、教育分野の援助総額が最も多い国はドイツであり、初等教育への援助額が最も少ない国はアメリカである。
- ② 2015 年において、教育分野の援助総額における初等教育への援助額の割合が最も小さい国はフランスであり、最も大きい国は日本である。
- ③ 2005 年と 2015 年を比較して、教育分野の援助総額の減少額が最も大きい国は日本であり、初等教育への援助額の増加額が最も大きい国はイギリスである。
- ④ 2005 年と 2015 年を比較して、教育分野の援助総額の増加率が最も大きい国はイギリスであり、初等教育への援助額の増加率が最も大きい国はドイツである。

問 3. 表 1～3 を見て、以下の 2 点について意見を書いてください。

表から読みとれる、日本政府の教育援助の特徴や傾向を書いてください。

気づいたこと、感じたことを書いてください（個人の意見を自由に述べてください）。

アクティビティ 9：首相・外務大臣に手紙を書こう

対象：小学生～大人

所要時間：45分

実施の難易度：★★★

■準備するもの

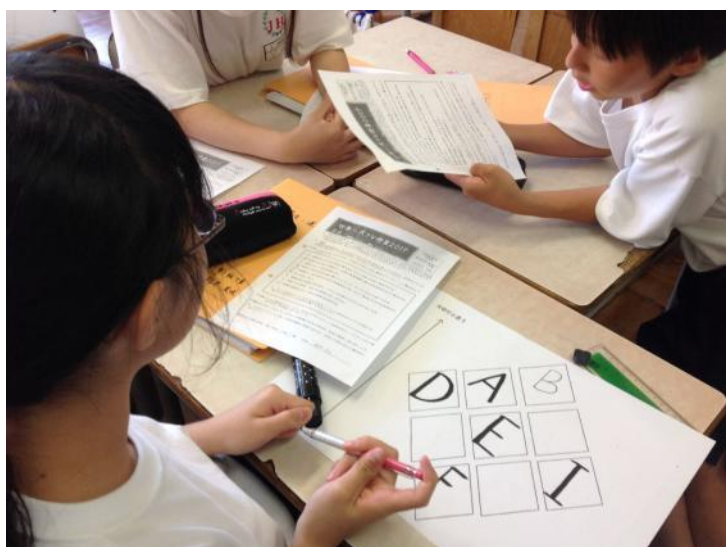
1. ダイヤモンド・ランキングのワークシート（54頁）1人1枚
2. 首相・外務大臣への手紙（55頁）グループに1枚

■ねらい

1. 子どもたちが自分の意見を表現し、提案をすることで「子ども参加」の実践の一步とする。
2. 実際に日本政府に届く手紙を書いてみることで「政策提言」を体験する。
3. 世界中の子どもが教育を受けるためには、子どもも含めた世界中の人々の協力が必要であることを知る。

■すすめ方

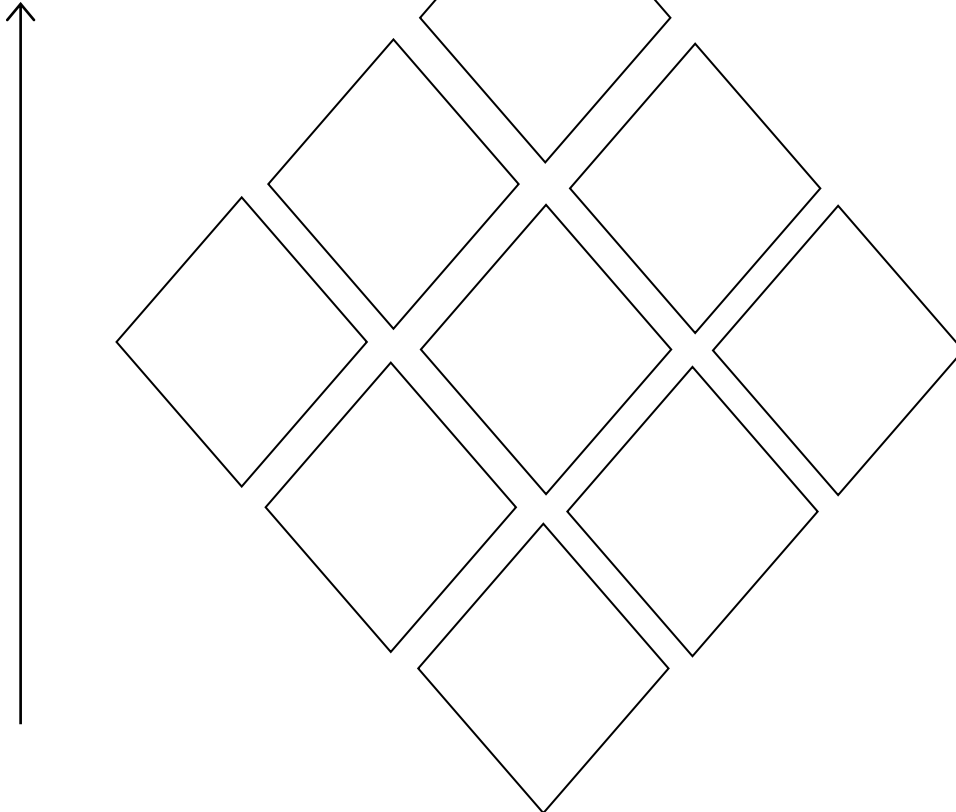
| 流れ | 学習内容 | 実施上の留意点 |
|-----------------|--|--|
| 1. 問いかけ | 全体に以下の情報提供と問いかけをする。 「世界中を見渡すと、6,400万人の子どもが小学校に通っていません。世界中の子どもが学校に通えるようになるために、どんなことができるでしょうか？」 | |
| 2. ダイヤモンド・ランキング | ダイヤモンド・ランキングのワークシートを1人1枚配付、個人で作業する。次に、4～6人の小グループでシートを見せ合い、理由を発表する。質問などがあれば互いに質問しあっても良い。 | 「このワークシートには正解や間違いはないので、よく聞き合うことを大切にしよう」と声をかけます。 |
| 3. 政策提言 | 小グループで「ダイヤモンド・ランキング」のワークシートや意見交換をもとに「首相・外務大臣への手紙」を書く。 | |
| 4. 共有 | 全体に共有する。 | |
| 5. 発展 | 「A」を選んだ人は「首相・外務大臣への手紙」に取り組む、「B」を選んだ人は実際にどんな NGO があるのか調べてみる、「I」を選んだ人は実際に意見を書いて投稿してみるなど、実際の行動につなげたい。 | 地元から選出された国会議員に「首相・外務大臣への手紙」を送ったり、質問したりすることもできます。 |



一昨年の様子（茨城県取手市立戸頭中学校）

世界中の子どもが学校に通えるために…
あなたが「大切だ」と思うことから◇の中にA～Iを記入して、
順番に並び替えてみましょう。

大切だと思う



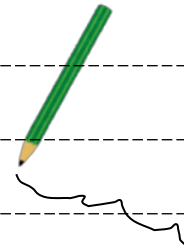
- A. 世界中の子どもが学校に通えるように日本の政府に働きかける
- B. お金や物などを集めて教育に関わる NGO などに寄付をする
- C. 現地に行って学校を建てる
- D. 教育の大切さや途上国の暮らしについてもっと調べてみる
- E. 文化祭や学園祭を通じて、多くの人に教育の大切さを発表する
- F. 特になにもしない
- G. 国際交流の活動を推進し、外国人と友だちになる
- H. 友だちや家族に話をする
- I. 新聞や SNS に自分の意見を投稿する

ほかに自分のアイデアがあれば空いているスペースに自由に書いてみよう！

わたしたちの政策提言

世界中の子どもが学校に通えるようになるために、

日本政府にお願いしたいこと、取り組んでほしいことは…



「世界一大きな授業 2019」をやって、わたしたちが感じたこと、考えたことは…



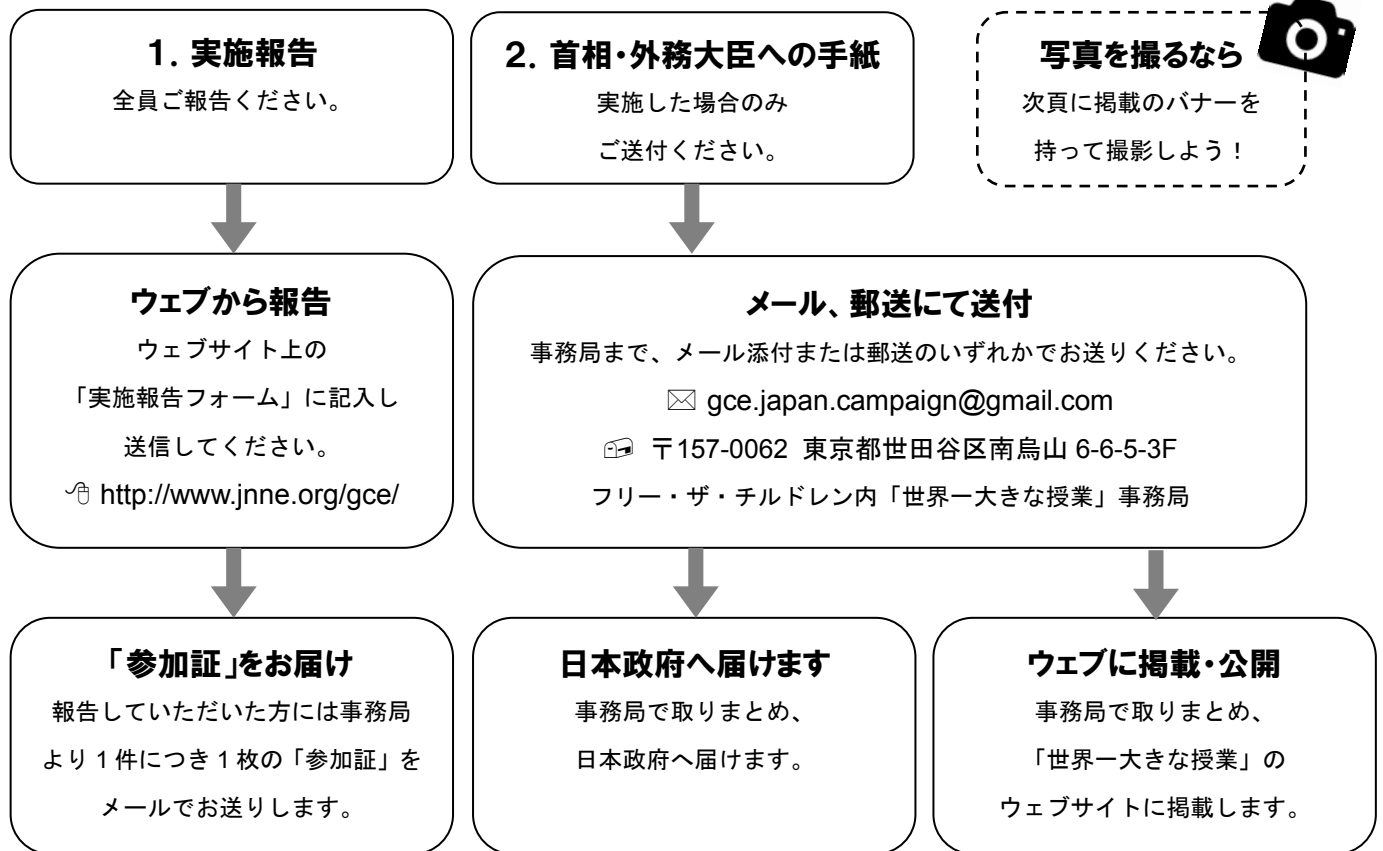
学校またはグループの名前： _____

グループの人数：（ ）人

グループメンバーの名前： _____

2. 終了後の手引き & 報告方法

実施内容によって3種類の報告方法があります



※「実施報告」は、ウェブからの報告のみ受け付けております。

2019年7月31日(水)までにご送付ください

- ・ 「1. 実施報告」「2. 首相・外務大臣への手紙」とともに、7月31日(水)必着です。たくさんのご報告をお待ちしております。
- ・ 「1. 実施報告」に「2. 首相・外務大臣への手紙」に記載された「わたしたちの政策提言」「感じたこと、考えたこと」を入力いただくとウェブサイトに掲載されます。「2. 首相・外務大臣への手紙」をメール添付・郵送で送るだけではウェブサイトには掲載されませんので、ご注意ください。
- ・ 報告や写真は、ホームページや報告書などでご紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合は、その旨をお書き添えください。
- ・ 2019年8月下旬に、事務局より、実施報告一件について一部、報告書をお送りします。

ご寄付での協力をお願いします

本教材の作成、キャンペーンの運営には、年間およそ100万円の資金が必要です。

昨年は参加された方々より、延べ143,345円のご寄付をいただきました。

運営には、ご寄付以外に、繰越金や賛同金、助成金等を充てておりますが、たいへん厳しい財政状況です。

寄付金は1口1,000円より募集していますので、ぜひ、ご協力をお願いいたします。

【みずほ銀行】新宿西口支店 普通 4839927 教育協力 NGO ネットワーク

【ゆうちょ銀行】記号 10110 (店番 018) 番号 43575271 (普通預金 4357527) 教育協力 NGO ネットワーク

※クレジットカードでのご寄付も受け付けております。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

※領収書は銀行の振込票をもって代えさせていただきます。活動・会計報告は9月末に「世界一大きな授業」ウェブサイトに掲載します。





4月13日 (土) ~ 6月30日 (日)

世界一大きな授業 2019

My Education, My Rights
わたしたちの政策提言

jme
教育能力 NGO ネットワーク

GLOBAL CAMPAIGN FOR
EDUCATION
www.campaignforeducation.org

「世界一大きな授業」2019 実行委員会

わたしたちは市民の立場から途上国／日本国内における教育支援を行っています。みなさんの参加をお待ちしています！

| 団体 | 主な活動 | 学校向けプログラム |
|--|---|--|
| 認定 NPO 法人 開発教育協会 (DEAR) TEL: 03-5844-3630 URL: http://www.dear.or.jp/ | | |
|  開発教育協会 | 全国の教員や NGO とともに開発教育を推進する教育 NGO です。教育現場で使える国際理解や異文化理解、SDGs 関連教材の作成、ワークショップや教員研修、政策提言に取り組んでいます。 | 「ワークショップ版・世界がもし 100 人の村だったら」「写真で学ぼう！地球の食卓」「貿易ゲーム」など教材を多数出版しています。先生向けのワークショップや研修会も随時開催。 |
| 公益社団法人 ガールスカウト日本連盟 TEL: 03-3460-0701 URL: https://www.girlscout.or.jp/ | | |
|  girl scouts | 少女の発達段階に合わせた独自のカリキュラムに基づき、「一緒にならこの世界を変えられる」という思いのもと、貧困・教育・環境問題等の世界的課題に取り組む機会をコミュニティに提供しています。 | 持続可能な開発目標 SDGs の達成に向けて、少女と女性を取り巻く問題を解決した活動を募集し、すぐれた活動を表彰します。詳しくは「コミュニティアクション チャレンジ 100 アワード」で検索してください。 |
| Global Citizen URL: https://www.globalcitizen.org/en/info/japan/ | | |
|  | 2030 年までに極端な貧困を撲滅を目指した、国際的な NPO 団体です。世界規模の課題解決に向けたオンラインプラットフォームにグローバルな若い世代を集結させ、課題解決に向けた「具体的な行動＝アクション」を促進させています。 | Curtis Scholarship という奨学金プログラムを通じて、グローバルリーダーになるため研修を貧しい地域に住む学生に提供しています。 |
| 公益財団法人 日本 YMCA 同盟 TEL: 03-5367-6640 URL: http://www.ymcajapan.org/ | | |
|  | 世界 120 の国と地域にひろがる国際団体で、平和、子どもの権利、青少年教育などの分野で、地域のニーズに即したプログラムを提供しています。 | 国内では 34 の都市に YMCA があり、YMCA による国際協力活動についての学びやボランティア活動の機会を地域に提供しています。 |
| 公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン TEL: 03-5481-0030 URL: https://www.plan-international.jp/ | | |
|  | 途上国 51 か国で、子どもとともに地域開発を進める NGO。さまざまな困難に直面する途上国の女の子たちの問題を訴え、教育プロジェクトなどを通して、彼女たちが「生きていく力」を身に付け、途上国の貧困軽減を目指す Because I am a Girl キャンペーンを実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・開発教育冊子『世界を変える若者のチカラ』 ・夏休み読書感想文コンクール ・講師派遣：途上国の子どもたちを取り巻く問題、ジェンダー平等などの理解を深め、解決に向けたアクションへの参加につなげます。 |
| NPO 法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン TEL: 03-6321-8948 URL: http://www.ftcj.com/ | | |
|  | 1995 年に当時 12 歳のカナダのクレイグ少年によって貧困や搾取から子どもを解放することを目的に設立された「Free The Children」を母体に 1999 年から活動を始めた NPO です。開発途上国での国際協力活動と並行して、日本の子どもや若者が国内外の問題に取組み、変化を起こす活動家になるようにエンパワーしています。 | <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業（国際理解、共生社会、ボランティアマインド育成等。オリパラ教育も対応可） ・教材販売・貸出（はたらく子どもシミュレーション・カードゲームセット、働く子ども紹介パネルセット等） ・ワークキャンプ実施（国内・海外でのボランティアなど） |
| NPO 法人 ラオスのこども TEL: 03-3755-1603 URL: http://deknoylao.net/ | | |
|  | ラオスの人々の絵本、紙芝居などの作品づくりを応援し、小学校などに届けています。日本では、日本の絵本にラオス語を張り、ラオスに送るボランティア活動に多くの人が参加しています。 | 日本の絵本にラオス語の翻訳を貼ってラオスに送りませんか。貼った人のサイン入り絵本が子どもたち楽しく読まれます。 |

© 教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) : この資料の著作権は、教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) に属します。著作権法上の例外を除いて、本書の全部または一部を無断で複製（複写・転写・引用・入力など）することを禁じます。この資料の複写による利用は、非営利の教育・学習活動あるいは、学術的な調査研究に限ります。 <http://jnne.org/>


 教育協力 NGO ネットワーク